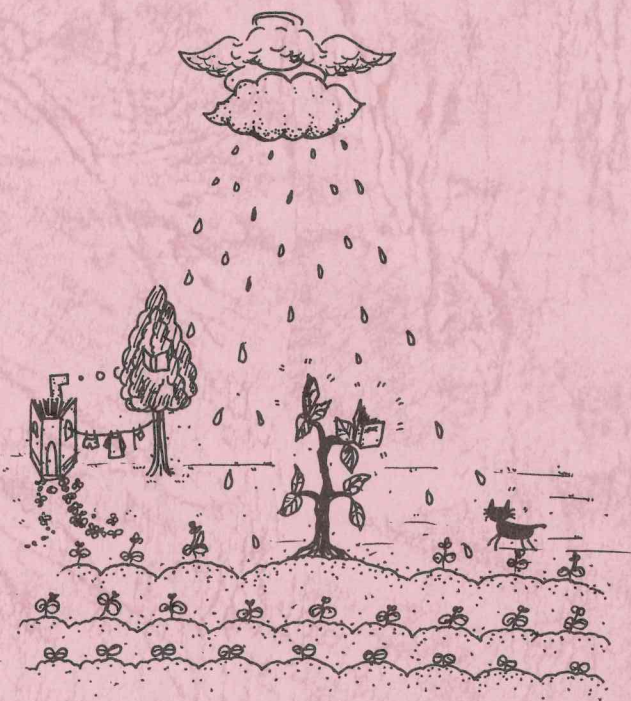


モデル児童図書目録（初級）

— 小学1・2年生に読んでほしい本 —



福岡市総合図書館

はじめに

「どんな本がこの子に向きますか」図書館で時々たずねられることがあります。たくさんの本のなかから、子ども達のその時期にあった本を選び出すのは、親も図書館員も、頭を悩ませるところです。

福岡市総合図書館では、こういった声に応えるべく、子ども達に読んでほしい本を掲載したモデル児童図書目録を、幼児、初級（1・2年生）、中級（3・4年生）、上級（5・6年生）の4段階に分けて、それぞれ刊行しています。また、モデル児童図書の展示コーナーをこども図書館内に設けて、皆さんがいつでも、実際に手にとってみることができるようにしています。

今回は、小学1・2年生を対象として選定いたしました。6～8歳といえば、読み聞かせの楽しみのほか、自分で読むことの楽しさを知るところでもあります。子ども達が読書の喜びを知るきっかけになればと期待しております。

この目録の選定や紹介文の執筆については、ボランティアの「福岡おはなしの会」と「子どもと絵本の会」の方々が、長年、子ども達へのおはなしや読み聞かせなどの活動でつちかってこられた知識や経験を、惜しみなく注ぎ込んでくださいました。人生をより深く生きる力を身につけるすてきな本に出会ってほしいという熱い思いを皆さんも感じ取っていただけるものと思います。

最後になりましたが、ご尽力をいただきました上記2団体のボランティアの皆様には厚くお礼申し上げます。

平成15年11月

福岡市総合図書館長 井口雄哉

凡 例

- 1 この目録は平成元年11月作成の、モデル児童図書目録（小学1・2年生用）を基として、福岡市総合図書館と「福岡おはなしの会」、「子どもと絵本の会」が協力して選定した小学1・2年生用の図書146点をまとめたものです。
- 2 配列は日本十進分類表の分類の順で、最後に絵本（E）を収録し、各区分内は書名の50音順です。
- 4 図書に関する記載事項は、書名、副書名、シリーズ名、著者名等（著者名、画家名、訳者名等）、出版社、出版年、福岡市総合図書館請求記号、ページ数、図書の大きさ、定価、原書名、原書の出版年の順にしています。
- 5 著者名等（著者名、画家名、訳者名等）の表示については、当該図書に記載されているものに従いました。
- 6 本体価格、絶版、品切れは、選定時のものによりましたので、その後変更につきましてはご了承ください。
- 7 巻末の著者名等（著者名、画家名、訳者名等）の索引は、50音順に配列しています。ただし、同一人物で図書によって表示が違う場合は統一しています。



世界のあいさつ

(みるずかん・かんじるずかん)

長 新太 さく

福音館書店 1989年 38チ

31P 24×24cm 1,300円

世界の人たちは、どんなふうにあいさつをしているのだろう。よし、調べてみよう。はじめに行ったのは中国。漢族の人たちの「クンショウ」というむかしからのあいさつは、両手で握りこぶしをつくり胸にあてるというもの。

世界で24の国と人々のあいさつを紹介している。長新太の絵も楽しい。



たしかめてみよう

たのしいかがくあそび(かがくのほん)

ローズ・ワイラー ぶん

ジェラルド・エイムズ ぶん

タリバルジス・スチュービス え

吉村 証子 やく

福音館書店 1969年 40ワ

64P 23×16cm 1,100円

こんなこと知っている？ 乾いた水、目に見えない水とは？

空気から水をとる方法、水の中に紙を入れてもぬれない方法、音にさわり、歯で音を聞く方法……。どこの家にもありそうな物を使ったやさしい実験で、「ほんとうかどうかをたしかめる」方法を教えてくれる。「科学は楽しいもの、その驚きと感動を子ども達に伝えたい」という著者の考えがよくわかる。



森のずかん

(かがくのほん)

松岡 達英 さく

福音館書店 1982年 40マ

39P 31×23cm 絶版

森でキャンプしたことある？

森にはいろんな生物がいる。鳥、虫、動物、魚……。そんな虫や魚のとり方や動物の生態だけでなく、キャンプの時に持っていくと便利な物、料理の仕方、道具の作り方、そして何よりキャンプの楽しみ方が描かれている。

一度森でキャンプをしてみたい、そう思わせてくれる一冊である。



海

(かがくのほん)

加古 里子 ぶん・え

福音館書店 1969年 45力

39P 31×23cm 1,400円

潮の引いた干潟や、波打ちぎわの小さな生き物たちの紹介にはじまり、身近なところから知らない深い海の中へと誘ってくれる。ページを繰るごとに、水深0mから1万mまで、海草や魚、プランクトンなど、様々な海の生物、海を探索する船など、細かく描き込まれた絵がおもしろい。子どもも大人も楽しめる、夏におすすめの一冊。

ほかに「地球」「宇宙」があり、自然科学の扉を開いてくれる。



おいしい野草

(みるずかん・かんじるずかん)

高森 登志夫 え

丸山 尚敏 ぶん

福音館書店 1992年 47マ

31P 24×24cm 絶版

いつもの道ばたや野や山でみかける野草には、食べられるものがたくさんある。本を開くと、花の時期と収穫期とが2ページにわたって描かれていて、おなじみの草花を見つけることができる。花だって食べられるものもある。巻末には、生育地、採り方、料理法ものっている。料理はおとなにまかせることにして、さあ食べられる野草を探しに行こう。この絵本を持って！



雑草のくらし あき地の五年間

(科学の本)

甲斐 信枝 さく

福音館書店 1985年 47カ

63P 29×31cm 2,300円

どこでも見ることができる雑草の成長を、5年間にわたって観察し、スケッチを重ねて出来上がった絵本である。1年目はヒメシバが、2年目にはオオアレチノギクが、というように、年ごとに違う草が芽生える。絵が自然でなじみやすく、雑草も名前を覚えると、道の草花を見るのが楽しくなる。

大自然の植物たちの四季を見せてくれる大型絵本である。



たねのずかん

とぶ・はじける・くつつく
(みるずかん・かんじるずかん)

高森 登志夫 え

古矢 一穂 ぶん

福音館書店 1990年 47ワ

31P 25×24cm 1,300円

この本は、「たねのなかには、たびをするものがある。風や、水や、どうぶつにはこぼれ、べつの土地で芽をだすために」という文で始まる。運ばれる種類ごとに、種とその成長した姿が描かれている。実物大から2倍の大きさまで細かく描写されていて、紹介されている植物の数も多い。植物がどのように新しいのちを誕生させるのか、種の形態から説明されていて、興味をひく一冊。



地面の下のいきもの

(みるずかん・かんじるずかん)

松岡 達英 え

大野 正男 ぶん

福音館書店 1988年 480オ

31P 25×24cm 1,300円

「虫の名前、いくつ言える？」舗装された道路や、都市化されていく生活圏の中、ほんの数種類の虫しか知らない子どもも多い。

この本には、虫たちが暮らしている地面の中の様子が、手にとるようにわかりやすく描かれている。現代の子ども達にこそ、手にとって、この不思議な世界を、ぜひ一度のぞいてみてほしい。きっと今まで知らなかった生命の営みに、何かを感じてくれることだろう。



昆虫 ちいさななかまたち

(かがくのほん)

得田 之久 ぶん・え

福音館書店 1974年 486ト

39,6P 31×23cm 1,400円

昆虫たちが、さまざまな場所をすみ分けて暮らしている様子や、幼虫から成虫へと姿を変えていく様子など、昆虫の生態をわかりやすく紹介している。また解説も載せてあり、知的好奇心を満足させてくれる。「子どももおとなも、昆虫の世界に目を向けてほしい、そして、昆虫とはどんな生物なのか、親しみの目と心で接してほしい」という作者の願いがこもった、昆虫絵本。



おねしょの名人

(かがくのほん)

山田 真・柳生 弦一郎 著

福音館書店 1996年 49ヤ

48P 27×22cm 1,300円

おねしょに関する疑問を、医師がわかりやすく子どもと対話する形で説明している。

おしっこのおしくみやじん臓、ぼうこうの働きなどを勉強していくと、子どもがおねしょをするのは普通のことなんだと気づいていく。

からだの成長と共におねしょはしなくなるのだと、やさしく説いている。



地下鉄のできるまで

(みるずかん・かんじるずかん)

加古 里子 さく

福音館書店 1987年 51力

31P 25×24cm 1,300円

子どもたちが大好きな乗り物そのものの絵本ではなく、できるまでを描いた絵本。

細部まで描いてあるので、ていねいにみるのも楽しいが、説明書きの文字が小さく、漢字を多用しているため、子どもが読むには少しつらいかも。

福岡のように地下鉄の走る街なら、なお興味もわくだろう。



こども世界の民話(上・下)

内田 莉沙子〔ほか〕 著

実業之日本社 1995年 90コ

238P 22×16cm 各1,845円

世界各国で語り伝えられてきた民話の中から、子ども向けのバラエティに富んだお話42編を、上下2巻に分けて収録。

さまざまな国や民族のものがあがり、いずれも魅力的で楽しく、珍しい話も多い。

子どもが一人でも読めるように、字も大きくわかりやすく再話・編集されている。



ことばあそびうた

(日本傑作絵本シリーズ)

谷川 俊太郎 詩

瀬川 康男 絵

福音館書店 1973年 911夕

36P 23×15cm 900円

「いるかないか いないかいるか……」声に出して読むとおもしろい詩ばかりだ。日本語の言葉のリズムのおもしろさを実感できる。子どもたちは言葉遊びの天才だ。お気に入りの詩を見つけてすぐに口ずさむ。駄洒落やナンセンスなんでもありの楽しい本である。

挿絵の美しい本で持ち歩くのにも便利なサイズ。「ことばあそび また」もある。



のはらうた 1

くどう なおこ 作

童話屋 1984年 911ク

155P 16×12cm 1,250円

野原みんなの代理人と称する作者が、野原に住む鳥や虫や、走り去る風のささやきを言葉にした詩集。へびいちのすけは、散歩をしながら「おーいげんきかぁ」としっぽにあいさつをし、かぜみつるは、みの虫のために、あしたの分のそよ風を使ってしまった詩を披露する。ユーモアあふれる詩と、添えられたカットもしゃれた小型本で、幼い子どもから大人まで楽しめる。4巻まで出ている。



1ねん1くみ1ばんワル

(こどもおはなしランド)

後藤 竜二 作

長谷川 知子 絵

ポプラ社 1984年 913ゴト

78P 24×19cm 1,000円

元気でいたずらで乱暴で、でも本当は恥ずかしがり屋で心優しいくろさわくん。彼に振り回されながらも、友情を育てているぼく。

そんな2人と1年1組の仲間たちとのハラハラ・ドキドキの学校生活を、明るく、時にはしんみりと描いている。子どもたちの気持ちをしっかりと受けとめ優しく応える先生の姿も魅力がある。

「1ねん1くみシリーズ」として10巻以上も続いている。



いやいやえん

(福音館創作童話シリーズ)

中川 李枝子 さく

大村 百合子 え

福音館書店 1962年 913ナカ

177P 22×16cm 1,200円

しげるは、ちゅーりっぷ保育園に通っている。きちんと約束を守るのが苦手。つい「いや」と言ってしまう。ある日、プレゼントが気に入らないとダダをこね、「いやいやえん」に連れて来られた。

ここでは、好きなことだけすればよいのだ。皆もそうだから、当然けんかが始まる。先生は止めもせず、「大けがするまでほっとくよ」と言う。「いや」と言いたい子、「いやいや」と言う子におすすめ。



オオくんとゆかいなかぞく

(おはなしパーク)

角野 栄子 作

大島 妙子 絵

ポプラ社 1999年 913カド

122P 21×16cm 1,000円

まつが丘には面白い家族がいるよ、山田さんって一家だよ。模型飛行機を99機も持っているおじいちゃん、ミミズと友達のおばあちゃん、迷子になるお父さん、お母さんとお姉ちゃんと妹の7人家族。

それにいとこや、自分を犬と思っていない犬のペチなど、ちょっと変てこで愉快な家族をオオくんが紹介してくれる。想像を広げて笑いながら読むうちに元気が出てきて、仲間入りがしたくなる。



おそばのくきはなぜあかい

(岩波の子どもの本)

石井 桃子 文

初山 滋 え

岩波書店 1954年 913イシ

56P 21×17cm 絶版

寒い冬の日、おそばは、冷たい川を1人のおじいさんをおぶって向う岸に渡してあげた。神様は、親切なおそばを春から夏にあたたかい日をあびて育つ穀物に、不親切だった麦は冬の寒さを耐えねばならない穀物にしたという。そして今でも、冷たい川を渡ったおかげでおそばのくきは真赤なんだと。他に「おししのくびはなぜあかい」など、全部で3つのお話はいっている。



きかんしゃやえもん

(岩波の子どもの本)

阿川 弘之 文

岡部 冬彦 絵

岩波書店 1959年 913 アガ

46P 21×17cm 640円

田舎の町の機関庫に古い機関車「やえもん」がいた。長い間働き、年をとってくたびれて、新しい電気機関車やレールバスに、いつもバカにされていた。「しゃっ、しゃっ、しゃくだ」「ちゃんちゃん かたかたけっとん」リズムカルな文章とユーモアあふれた楽しい絵は、読者の心を引きつけ、やえもん汽車が走り出すと、自分も乗客となり「やえもん」になっている。



くまの子ウーフ

(ポプラ社の創作童話)

神沢 利子 作

井上 洋介 絵

ポプラ社 1969年 913 カン

128P 22×18cm 1,000円

ウーフは元気なくまの子ども。毎日、食べたり遊んだりしながらいろんなことを考える。「さかなにはなぜ したがない」「ウーフは おっしっこでできているか？？」など、ウーフの素朴な疑問をテーマにしたのどかな話が9編、子どもたちの興味をそそる。ちょっといじわるなきつねのツネタヤ、かわいいうさぎのミミの存在も、身近に感じる。自分で読むにも、読み聞かせにも、楽しい一冊。



ジャムねこさん

(子ども図書館)

松谷 みよ子 著

渡辺 洋二 画

大日本図書 新版 1988年 913 マツ

77 P 22×16 cm 1,200 円

真っ白で背中がアンズ色の子ねこが、ジャムパンになって食べられるのではないかと怖くて泣いてしまう「ジャムねこさん」を含めて、6つの短編からなる幼年童話。それぞれ、小さな子どもの興味をひく親近感のある素材をつかって、子どもの目線で語りかけるように展開される。ふだんの何気ない事柄からにじみでてくるユーモアに、思わず笑いをさそわれる。



なぞなぞの好きな女の子

(新しい日本の幼年童話)

松岡 享子 さく

大社 玲子 え

学研 1973年 913 マツ

61 P 23×19 cm

あるところに、なぞなぞの大好きな女の子がいた。なぞなぞをしてくれる人を探しに森へ。すると、ぱったり、おひるにたべる子どもをさがしていたオオカミにであう。女の子は、オオカミをなぞなぞあそびにさそう。オオカミは、なぞなぞが解けず、たいくつした女の子は、うちに帰ってしまう。たくさんのなぞなぞが登場し楽しめる。作者の手作り指人形の解説があり、ぜひ挑戦したい。



はじめてのキャンプ

(福音館創作童話シリーズ)

林 明子 さく・え

福音館書店 1984年 913ハヤ

102P 22×16cm 1,200円

なほちゃんは、はじめてのキャンプに出かける。まき集め、食事の用意、キャンプファイヤー、怖い話、すべてがはじめての経験だ。

流れ星を眺め、暗闇の中で一夜を過ごした翌朝、「わたし、おおきいこのように、ちゃんとキャンプできたよ！」なほちゃんの笑顔がかわいい。シンプルな線で描かれた子どもの生き生きした姿や、濃淡の使い分けによる夜の闇の変化が絶妙である。



ぼくは王さま

(理論社名作の愛蔵版)

寺村 輝夫 さく

和田 誠 え

理論社 1967年 913テラ

185P 23×16cm 1,200円

遊びが大好き、注射は嫌い、ちょっぴりうそつきな王さまが繰り広げる愉快な物語。王さまは王子様が生まれたお祝いに大好きなたまご焼きを国中の人にごちそうしようと思いつく。そんなにたくさんのおたまごはないと大臣たちに言われても、象のおたまごなら大きいだろうということになり、象のおたまご探しが始まる。わがままだけれど憎めない王さまは、子ども達の共感を得るだろう。



みどりいろのたね

(福音館創作童話シリーズ)

たかどの ほうこ 作

太田 大八 絵

福音館書店 1988年 913 タカ

95P 22×16cm 1,200円

うっかりもので、なまけものまあちゃんは、えんどうまめのたね5つと一緒に、緑色のあめ玉もうめてしまう。まあちゃんが、ちっとも水やりをしないのでなかなか大きくなれない5つのたねは、緑色のあめ玉をなめて大きくなっていく。すると……。えんどうまめというより、まるで、メロンあめのようなあまくておいしいまめができています！そのおかげで、まあちゃんも皆に囲まれてニッコリ。



ももいろのきりん

(福音館創作童話シリーズ)

中川 李枝子 著

中川 宗弥 え

福音館書店 1965年 913 ナカ

88P 22×19cm 1,200円

るるこは、おかあさんからもらったとても大きいももいろの紙で、世界一きれいで大きなキリンのキリカを作った。キリカは、るるこを背中にのせて、クレヨン山へ。こんなことができたらいいなという子どものあこがれを、るることキリカが実現してくれる。クレヨン山で、あばれもののオレンジぐまをやっつけたキリカ。

子どもたちが、ファンタジーの世界を味わえる一冊。



ロボット・カミイ

(福音館創作童話シリーズ)

古田 足日 さく

堀内 誠一 え

福音館書店 1970年 913フル

88P 22×19cm 1,200円

捨てられそうになった紙の箱から、たけしとようこが作ったロボット・カミイ。いばりんぼで泣き虫で、わがままで、もうお世話が大変。だけど、お友達がひかれそうになった時、ダンプカーの前に飛び出して助けてくれたのだった。ぺしゃんこになったカミイは、一体どうなるのだろう……。現実とファンタジーが共存する小さな子ども達の世界が、見事に描きだされていて子ども達の共感を呼ぶ。



クイールはもうどう犬になった

こわせ たまみ 文

秋元 良平 写真

ひさかたチャイルド 1992年 916コ

39P 24×21cm 1,000円

生後すぐの犬が、盲導犬になるまでの3年間を追った写真絵本である。盲導犬というもの、どのような過程を経て育てられてゆくのかという事実を教えてくれる。クイールの表情はもちろんだが、関わる人々の姿からも、その努力や愛情が伝わり、静かな感動を残してくれる。



花仙人 中国の昔話
(世界創作童話シリーズ)

松岡 享子 文

蔡 皋 画

福音館書店 1998年 92頁

56P 22×19cm 1,100円

千年も昔、中国の都のはずれに、花を育てるのがたいそう上手な老人がいた。そこへ、ならず者が手下を連れてやって来て、老人の大切なばたん園をめちゃめちゃにしてしまう。悲しむ老人の前に、ばたんの仙女が現われて……。物語は二転三転、やがて老人は天に昇り、花仙人となる。中国の画家による深い色調の挿絵も、ばたんの花や仙女の美しさを伝えて美しい。



エルマーのぼうけん

ルース・スタイルス・ガネット さく

ルース・クリスマン・ガネット え

わたなべ しげお やく

福音館書店 1963年 93頁

116P 22×16cm 1,100円

My father's dragon (1948)

勇敢な男の子エルマーは、動物島に捕らえられているりゅうの子どもを救出するため、七色のリボン、ハブラシ、わゴムなど身の回りにある物をリュックサックにつめて出発する。そして、知恵と機転をはたらかせて無事に救出。「やたしもわだや、おっとまちがい、わたしもやだわ」など、言葉の面白さにワクワクしたり、ドキドキしたり、エルマーになりきって冒険を楽しめる。続編もある。



おじいちゃんの目、ぼくの目

(文研の創作えどうわ)

P・マクラ克蘭 作

若林 千鶴 訳

広野 多珂子 絵

文研出版 1999年 93マ

46P 24×20cm 1,200円

Through grandpa's eyes (1979)

ジョンは、おじいちゃんが好きだ。おじいちゃんは目が見えない。だけど、鼻や耳や指が目の代わりに働いて、だれがどこで何をしているのかわかってしまう。ジョンも目をつぶってまねてみる。

すると、小鳥たちの鳴き声、木をカサコソさせる風の音が、前よりはっきりきこえてくる。障害を抱えながらも心豊かに過ごしている老人と孫の交流が、ゆったりと描かれている。

空 白



お話してよ、もうひとつ

コルウェルさんのお話集

アイリーン・コルウェル 選

よつだ ゆきえ 訳

ゆぐち えみこ 絵

新読書社 1998年 93才

176P 22×16cm 1,500円

Tell me another story (1964)

子どもに読み聞かせたり、語り聞かせたりすることを目的に集められたお話集。不思議な話、ゆかいな話、心あたたまる話など、小さいお話が全部で12編は入っている。幼い子の日常を描いたものや動物を主人公にしたものなど、子どもたちの共感をよび、お話の楽しさを味わわせてくれる。低学年の子どもがこの楽しさを充分味わうために、ぜひ、大人が読み聞かせてあげてほしい。

空 白



木の上のお城

(おはなしフェスタ)

G・クロス 作

岡本 浜江 訳

タカタ ケンジ 絵

あかね書房 1996年 93ク

129P 21×16cm 入手不可

The tree house (1993)

父親と二人の子どもたちが、木の上の家を作る計画をたてる。しかし、父親が仕事で遠くに行き、計画は中断したかにみえる。けれども父親は、小包を送り息子たちの家作りを応援する。一見役に立ちそうにない小道具が、子どもたちのひらめきや工夫で、木の上の家を居心地のいい場所へと作りあげていく。

夢あふれ、息のあった親子の交流に心あたたまる作品である。



きょうりゅうが学校にやってきた

(世界こどもの文学)

アン・フォーサイス 作

熊谷 鉦司 訳

むかい ながまさ 絵

金の星社 1985年 93フ

85P 22×16cm 1,100円

Monster Monday (1983)

トムが教室の窓の外を見ていると、ずんぐりとした子ウシほどの大きさの恐竜が現われる。そして、スキップしながら教室にはいってきて前列の机に座る。テスト用紙を食べたり、給食のキャベツを食べたり、学校は大さわぎ。校長先生も消防署の救助隊も、どうしていいかわからない。「きょうりゅうで町は大さわぎ」「きょうりゅうが図書館にやってきた」など、シリーズが5冊ある。



金のがちょうのほん

四つのむかしばなし

(福音館世界傑作童話シリーズ)

レズリー・ブルック 文・画

瀬田 貞二・松瀬 七織 訳

福音館書店 1980年 93ブ

99P 26×20cm 1,800円

The golden goose book (1904)

「金のがちょう」「三びきのくま」「三びきのこぶた」「親ゆびトム」と、子どものころに出会っておきたいイギリスの昔話4話が、ユーモラスな挿絵とともに収められた美しい本。1904年に出版された古典だが、原話に忠実なしっかりとした再話が、子どもたちをひきつける。絵も登場人物の性格や物語の雰囲気をよく表していて、楽しい。リズムのある良質の日本語は、読み聞かせにも向く。



こぐまのくまくん

(はじめてよむどうわ)

E.H.ミナリック ぶん

モーリス・センダック え

まつおか きょうこ やく

福音館書店 1972年 93ミ

60P 23×16cm 1,000円

Little bear (1957)

好奇心と想像力にまかせて、思いのままに行動するくまくんと、愛情深く、余裕たっぷりとその相手をするおかあさんの楽しいお話4編。雪の日、寒がって次々に着るものを求めるくまくんに、おかあさんが最後にあげたものは？思いがけないオチに思わず笑いがこぼれる。くまくんの表情やおかあさんの服装など、ていねいなペン画も楽しい。絵本から読みものへの橋渡しに最適の一冊。



ジェインのもうふ

アーサー＝ミラー 作

アル＝パーカー 絵

厨川 圭子 訳

偕成社 1971年 93ミ

70P 23×20cm 1,200円

Jane's blanket (1963)

ジェインが大好きなピンクの毛布。赤ちゃんの時は、それさえあればごきげんだった。成長し、毛布はすり切れてぼろぼろになっても、彼女はそれを手放すことができない。ある日、窓際に置いた毛布から鳥が糸を引き抜いていた。驚いたジェインに、両親は鳥がその糸で巣を作ろうとしているのだと説明する。その時の父親の言葉が彼女の胸を打つ。少女の心の成長が細やかに描かれている。



ジミーとジャネット、ふたりはふたご

(おはなしはらっぱ)

B. クリアリー 作

いとい しげさと 訳

やまわき ゆりこ 絵

あかね書房 1997年 93ク

84P 21×16cm 入手不可

The real hole (1960)

ジミーとジャネットは、男の子と女の子のふたご。好きな物はちがうけれど、いつも一緒。ジャネットはごっこ遊びが好き。ジミーは本物で遊ばないと気がすまない。ある日ジミーは本物のシャベルを使って、世界中で一番大きな穴をほり始めるのだが.....。

にぎやかなふたごと、それをあたたかく見守る両親の姿が、ほほえましい。



すえっこメリーメリー

(子どもの本)

ジョン・ロビンソン 作・絵

松野 正子 訳

大日本図書 1999年 93口

123P 21×16cm 1,333円

Mary-Mary stories (1965)

メリーメリーは五人きょうだいのすえっ子。きかん気で好奇心旺盛な女の子。上の四人にじゃまものあつかいされても、少しもくじけない。思いつくまま突飛な行動をするのに、結果はいつも上々。

お母さんのあたたかいまなざしに見守られて、メリーメリーと四人のきょうだいがくり広げる、ゆかいで楽しい物語。



すずめのくつした

(ゆかいなゆかいなおはなし)

ジョージ・セルデン ぶん

光吉 郁子 やく

ピーター・リップマン え

大日本図書 1978年 93セ

72P 22×16cm 922円

Sparrow socks (1965)

アンガスのうちで作ったくつ下は、冬がきたのにちっとも売れない。寒そうにふるえていた仲よしの雀ブルースに、アンガスがくつ下を作ってあげると、雀たちに大評判。カタコト、カタコト、ブルン、ブルンと回るくつ下編み機のリズムによって、ゆかいな話が展開されていく。

黒のペン画に、くつ下の赤がとても効果的である。



世界でいちばんやかましい音

ベンジャミン・エルキン 作

松岡 享子 訳

太田 大八 絵

こぐま社 1999年 93工

34P 18×18cm 1,100円

The loudest noise in the world (1954)

世界でいちばんやかましい都ガヤガヤで、とりわけやかましいことが大好きなギャオギャオ王子。世界中の人々は、ありったけの声を張り上げて、王子さまの誕生日をお祝いしようとしていた。その瞬間、何億という人の耳に聞こえたのは.....。

大さわぎの後の静かな結末が、騒音に満ちた現代の私たちに、さわやかさを運んでくれる。



ソフィーのねがいごと

ウェンディー・オルー 文

ゆあさ ふみえ 訳

むかい ながまさ 絵

あすなる書房 1996年 93才

79P 22×16cm 950円

Ark in the park (1994)

都会の高層マンションに住むソフィーは、両親が忙しくていつもひとりぼっち。一人で行ってはだめと言われている通りの向こうの公園には、いろんな動物のいるペットショップ「ノアの箱船」がある。誕生日についに連れて行ってもらったソフィーは、そこでノア夫婦や動物たちと出会う。夢いっぱいペットショップを舞台に、心が通いあうことの喜びや出会いの素晴らしさを伝えてくれる。



ねこのホレイシヨ

エリナー・クライマー 文
ロバート・クアッケンブッシュ 絵
阿部 公子 訳
こぐま社 1999年 93ク
61P 19×14cm 1,000円
Horatio (1968)

ねこのホレイシヨは、抱かれるのが嫌いだし、うれしくてものをゴロゴロ鳴らしたりしない。かわいがられるよりも尊敬をこめて扱ってほしいと思っている。ところがある日、思いがけずひと晩中外で過ごす羽目になり、様々な経験をしたホレイシヨは……。

終始しかめっ面のホレイシヨが、最後のページで見せる笑顔に、見る方もついニコリさせられてしまう。



番ねずみのヤカちゃん

(世界傑作童話シリーズ)
リチャード・ウィルバー さく
松岡 享子 やく
大社 玲子 え
福音館書店 1992年 93ウ
68P 22×19cm 1,300円
Loud mouse (1963)

子ねずみのヤカちゃんは、ライオンかと思われるほど大きな声の持ち主。そのため、何度も危ないめにあうが、かあさんねずみのいっつけを守って何とか切り抜けて……。「しーっ、しずかに！」といつも注意されるヤカちゃんは、子どもたちそのもの。

ヤカちゃんが大声で何か言うたびに子どもたちは大喜びし、ヤカちゃんと自分を重ねて物語を楽しむ。声に出して読むと最高！



ひりっかすの子ねこ

(世界のどうわ傑作選)

マインダード・ディヤング 作

中村 妙子 訳

偕成社 2訂 1985年 93デ

138P 22×18 cm 1,000円

The last little cat (1961)

ひりっかすの子ねこは、すえっこでみそっかす。おちちもろくにももらえず、いつも寒くてぶるぶるふるえていた。

家族からはみ出して見知らぬ世界をさまよう子ねこが、さまざまな人間や動物と出会ったのちに、目の見えない老犬とめぐりあい幸せをつかむという物語。子ねこと老犬の間に生まれた愛情、友情のあたたかさが、リズムのある詩のよな文とともに、心に残る。



ぺちゃんこスタンレー

ジェフ・ブラウン 文

トミー・ウンゲラー 絵

さくま ゆみこ 訳

あすなる書房 1998年 93ブ

79P 21×16 cm 950円

Flat Stanley (1964)

ある朝、目が覚めると、パンケーキのようにぺちゃんこになっていたスタンレー。ぺちゃんこなら、鍵がかかった部屋でもドアの下をくぐって入れるし、遠い所へも手紙のように配達してもらえる。泥棒まで捕まえて、ぺちゃんこの生活を楽しんでいただけれど.....。

ニューヨーク生まれのジェフ・ブラウンと1998年度国際アンデルセン賞受賞画家、トミー・ウンゲラーによるユーモアあふれる作品。



ぼくはめいたんてい 1 きえた犬のえ
マージョリー・W・シャーマット ぶん
マーク・シマント え
光吉 夏弥 やく
大日本図書 1982年 93シ
60P 22×16cm 1,200円
Nate the great (1972)

めいたんていネートは、友達から依頼されたどんな事件も見事に解決していく。この物語では、子ども達の日常におこりそうな出来事を、ユーモアたっぷりにテンポよく描いている。登場人物の絵も表情豊かに描かれていてとても楽しい。

子ども達は、自分もめいたんていになったつもりで、謎解きを楽しめる。他、シリーズ多数。



ミリー・モリー・マンデーのおはなし
(世界傑作童話シリーズ)
ジョイス・L・プリスリー さく
上條 由美子 やく 菊地 恭子 え
福音館書店 1991年 93ブ
194P 22×19cm 1,400円
“Milly-Molly-Mandy goes errands”
and other stories

ミリー・モリー・マンデーという小さな女の子とその家族、友達、動物達との心あたたまる12の話。森でハリネズミの赤ちゃんを拾って育てたり、子どもだけのティーパーティーを開いたり、女の子にとってはうらやましいことばかり。家族みんなから愛されているミリー・モリー・マンデーが生き生きと描かれ、読み手も幸せな気持ちになれる。挿絵もやさしいタッチで親しみやすい。



ゆうかんなハリネズミマックス

(あかね世界の文学シリーズ)

D.キング=スミス 作

金原 瑞人 訳

津尾 美智子 画

あかね書房 1994年 93キ

111P 21×16cm 入手不可

The hodgeheg (1987)

大好物のえさがたくさんある公園はハリネズミに大人気の場所。でもそこへは道路を渡らないと行けないので、ハリネズミ達はいつも自動車事故の危険に悩まされていた。そこで、ハリネズミのマックスは、どうやったら安全に道路を渡れるか調べることにした。人間にけ飛ばされたり、車にはねられそうになったりしながらがんばるマックスの冒険物語である。



ゆうびんやはだれ？

(世界傑作童話シリーズ)

ルース・エインワース 作

河本 祥子 訳・絵

福音館書店 1987年 93工

87P 22×16cm 1,200円

The new postman (1970)

庭に住む動物や鳥たちは、手紙を出したりもらったりしたいと思っていた。石の下にポストはあるけれど、その手紙を届けてくれるゆうびんやはいない。そこで、みんなはゆうびんやさんを決めることにした。子ネコ、子イヌ、リス、コマドリ。果たしてゆうびんやさんに適しているのは誰？動物の特徴をよくとらえており、読後感さわやか。やわらかいタッチの絵も親しみやすい。



リトル・カーのぼうけん

(子どもの本)

リーラ・バーク 作

幸田 敦子 訳

太田 大八 絵

大日本図書 1990年 93パ

103P 25×19 cm 1,048円

The little car (1955)

なまえをリトル・カーという小さな自動車が、車庫のネズミを助けたり、赤ちゃんを病院に連れて行ったり、霧の中やきつい坂道を走り、困難にぶつかってもそれを元気にのりこえるお話。

人間の子どもの同じ心を持つ、がんばり屋のリトル・カー。いつでも愛情たっぷりに励ましの声をかけるご主人。車と人の間に生まれたきずなが、ストーリーをもりあげている。



あおい目のこねこ

(世界傑作童話シリーズ)

エゴン・マラーセン さく・え

せた ていじ やく

福音館書店 1965年 94マ

109P 22×16 cm 1,200円

Mis med de blå øjne (1949)

あおい目のげんきなねこは、ねずみのくを見つげに出かけるが、なかなか見つからない。「ふつうのいいねこは、きいろい目だまなんだよ」と他のねこたちから言われるが、こねこは少しも気にしない。勇気とがんばりで、ついにねずみのくを見つげる。そして仲間の人気者となる。

次々におこる出来事が、なんとユーモラスで親しみがもてる。



やかましむらのこどもの日

リンドグレーン 作

ヴィークランド 絵

やまのうち きよこ 訳

偕成社 1983年 94リ

61P 21×16 cm 1,000円

Barnens dag i bullerbyn (1966)

思いつきり泣いたり、おなががよじれるほど笑ったり。ドキドキする冒険をしたり、一生懸命やったのに、なぜかうまくいかずにしかられたり……。そんなあふれんばがりのエネルギーに満ちた子ども達の、のびのびとした生活を描いたやかましむらシリーズの一冊。大自然に囲まれおおらかに、心豊かに育っていく子ども達のさまざまな体験が、実に愉快地描かれている。



はんぶんのおんどり

ジャンヌ・ロッシュ＝マゾン さく

やまぐち ともこ やく

ほりうち せいいち え

瑞雲舎 1996年 95口

68P 23×19 cm 1,262円

La moitié de jeu

弟のステファヌに残された財産は、王様からの給料未払いのかきつけと真っ二つに割られたおんどりの片方だった。ステファヌに看病されて元気になったおんどりは、助けてくれたお礼に王様の所へ給料の取り立てに出かけた。川と火と風を味方につけたおんどりが大活躍する奇想天外なお話。ユーモラスな挿絵がたくさん描かれていて、絵本の感覚で読めるフランスのしゃれた童話。



こねずみとえんぴつ

12のたのしいおはなしとえのほん

(世界傑作童話シリーズ)

ステーエフ さく・え

松谷 さやか やく

福音館書店 1982年 98ス

143P 22×16cm 1,500円

ねずみにかじられそうになったえんぴつが、最後に頼んで絵を描く。チーズ？りんご？ソーセージ？いえいえ、えんぴつが描いたものは……。ハリネズミやオンドリたちは、知恵を出し合ってくるみの船を浮かべたり、ばらばらの車輪を手押し車や水車に生かしたり。こどもたちの目線に近い小動物や虫たちのたのしい日々の出来事や冒険が繰り広げられている。12編からなる短編集。



赤ずきん

(大型絵本)

グリム 原作

バーナディット・ワッツ 絵

生野 幸吉 訳

岩波書店 1978年 Eウ

32P 33×24cm 1,700円

Rotkäppchen (1968)

有名なグリムのお話を大判の絵本にしたもの。

森にはかれんな花が咲き乱れ、赤ずきんは素朴でかわいらしく、オオカミもあまりこわくみえない。クレヨンで明るくカラフルに描かれた絵、やさしくかみくだかれた文で、子どもたちには親しみやすい「赤ずきん」となっている。しかし、最後にオオカミがおなかに石をつめられて死ぬところは、迫力がある。



あかてぬぐいのおくさんと7にんのなかま
(世界の傑作絵本シリーズ 韓国の絵本)

イ ヨンギョン ぶん・え

かみや にじ やく

福音館書店 1999年 Eイ

31P 24×33cm 1,500円

いつも頭に赤い手ぬぐいをかぶっている「あかてぬぐいのおくさん」は、針仕事が得意。毎日、ものさし、はさみ、針、糸などの7種類の道具を使って仕事に励んでいる。ある日、おくさんがうたた寝をしている間に、7つの道具たちが、誰がいちばんえらいかと言い争いを始めた。その声に目をさましたおくさんは……。いまではあまり使われない道具も登場。韓国の風俗が美しい大型絵本。



雨、あめ

ピーター・スピアー 作

評論社 1984年 Eス

32P 27×27cm 1,400円

Rain (1982)

「あ、雨だ。それっ！」レインコートを着て、雨靴をはいて、傘をさし、きょうだいそろって雨の中へ。雨どいから激しく落ちる水、くもの巣についたたくさんの雨粒。水たまりにもざぶざぶはいっちゃえ。強風で逆さまの傘。いつもと違う雨の日の散歩。

水彩で細かく描きこまれた1コマ1コマの風景が、雨にたっぷりつかって遊ぶ楽しさを伝えてくれる、文字のない絵本。



あらしのよるに

(愛蔵本シリーズあらしのよるに 1)

きむら ゆういち 作

あべ 弘士 絵

講談社 2000年 Eア

52P 24×19cm 1,400円

あらしの夜に、小屋の中で一緒になったヤギとオオカミ。暗やみの中でお互いが何者なのかわからない。うなる風、たたきつける雨、かみなりと稲光の中、二人の会話は少しズレながらも、だんだん意気投合していく。お互いの正体がわからないまま続く、ちぐはぐな会話と、正体がわかってしまうかどうかのスリルが、面白い。

人気シリーズの1作目。



アンナの赤いオーバー

(児童図書館・絵本の部屋)

ハリエット・ジーフェルト ぶん

アニタ・ローベル え

松川 真弓 やく

評論社 1990年 E口

32P 27×20cm 1,300円

A new coat for Anna (1986)

アンナのオーバーは、もう小さくなってすっかりすり切れてしまった。新しいオーバーを手に入れるためには、大切なものを手放したり、羊の毛を刈って糸をつむいでもらったり、たくさんの人の手と、長い時間が必要だった。

使い捨てに慣れ大切なものを見落としがちなることを、気づかせてくれる。アニタ・ローベルの深い愛情のこもった繊細な絵が美しい。



いちねんせい

谷川 俊太郎 詩

和田 誠 絵

小学館 1988年 Eワ

48P 27×20cm 1,000円

「せんせい」「たかしくん」など、初めて学校へ行く子どもたちの気持ちがよくわかる。なかでも「わるくち」は、スカッと笑える楽しい詩である。優しい詩、おかしい詩、不思議な詩、好きな詩を選んで楽しめば、不安な気持ちは吹き飛んでしまう。「あったことのないこと わたし もうすぐともだち」学校っていいところだと思える。シンプルな絵も、ほのぼのして楽しい。



うごいちゃだめ!

エリカ・シルヴァマン ぶん

S.D. シンドラー え

せな あいこ やく

アスラン書房 1996年 Eシ

32P 29×23cm 1,500円

Don't fidget a feather! (1994)

アヒルとガチョウは、チャンピオンを決めるため、「うごいたらまけ」競争を始める。ハチ、ウサギ、カラス、風、と次々出てくる障害にもたじろがず、羽一本動かさない。勝負は次第に緊迫していき、キツネの登場によりクライマックスへ。

シンドラーの生き生きしたユーモアあふれる絵が、物語の展開と見事にマッチして、読者を最後のページまでひきつけて離さない。



ウルスリのすず

(大型絵本)

ゼリーナ・ヘンツ 文

アロワ・カリジェ 絵

大塚 勇三 訳

岩波書店 1973年 Eカ

43P 25×32cm 絶版

Schellen-Ursli (1946)

スイスに住む山の子ウルスリは、父さん母さんを手伝って、牛小屋の世話や水くみ仕事をせさせとこなす。あすは、村の春を告げる鈴行列のお祭りだ。家の手伝いを終えてかけつけたら、鈴は一番小さなものしか残っていなかった。「ちびっこ鈴のウルスリ」と皆はからかう。そんなのイヤだ!とウルスリが思いついたのは.....。

待望の春を迎えるスイスの人々の喜びが息づいている絵本。



王さまと九人のきょうだい 中国の民話

(大型絵本)

君島 久子 訳

赤羽 末吉 絵

岩波書店 1969年 Eア

42P 26×20cm 1,200円

顔も体つきもそっくりな九人のきょうだい。それぞれ「くいしんぼう」「はらいっぱい」「ぶっくれ」などその名前とマッチしている特技で、王様の悪だくみを次々とかわしていく。

たくましく、力強く、奇想天外なドラマの展開は、読み手をぐいぐいと引きつける。

おらかな中国の民話が、のびのびとした絵で描かれている。



おおきなきがほしい

(創作えほん)

佐藤 さとる ぶん

村上 勉 え

偕成社 1971年 Eム

31P 26×21cm 1,000円

うーんと太くて、高い、とても大きな木があったら。

はしごをかけて登っていくと、ぼくの小屋。中には、ちゃんとテーブルに、いすに、台所まである。もっと登ると、リスやカケス、ヤマガラの家、そして、遠くまで見渡せる見はらし台も。季節ごとに、いろんないきものたちが遊びに来て……。主人公のさとると一緒に、読者の想像も果てしなく広がっていく。親子で楽しめる一冊である。



おかあさんの紙びな

(創作絵本)

長崎 源之助 作

山中 冬児 絵

岩崎書店 1976年 Eヤ

27P 29×25cm 1,400円

戦争で食べるものがなくなり、お腹をすかせた私に、ある日お母さんは白いご飯をどっさり食べさせてくれた。それが大切なおひな様ととりかえたお米だったと知った時、私は、一日中泣き通した。そんな私に、お母さんはだまっていくつもいくもの紙びなを折ってくれた。戦争の不条理さ、悲しさ、お母さんのやさしさが、しみじみと伝わってくる絵本。



おしいれのぼうけん

(絵本ぼくたち子どもだ)

ふるた たるひ さく

たばた せいいち 画

童心社 1974年 Eタ

77P 27×20cm 1,200円

さくら保育園には、怖いものが二つある。押し入れと人形劇のねずみばあさんだ。あきらとさとしは、けんかの罰として押し入れに入れられる。そこは、ねずみばあさんが支配する地下の世界だった。

二人は力をあわせてねずみたちと戦い、そして勝つ。

鉛筆で描かれた絵からも大冒険の迫力が伝わってきて、ハラハラドキドキ。子どもたちの生き生きとした表情もいい。



おとしぶみ

ゆりかごをつくるちいさなむし

(かがくのとも傑作集)

岡島 秀治 ぶん

吉谷 昭憲 え

福音館書店 1990年 Eヨ

27P 26×24cm 絶版

6月の雑木林に、くるくるとまいた葉っぱがいっぱい落ちていて。誰が作ったのだろう？

小さな虫が大きな葉っぱを、かんで、折って、卵をうみつけて、くるくるとまいて、切り落とす。そう、葉っぱは、幼虫を育てるゆりかごだったのだ。小さな虫の子育ての知恵に、思わず感動させられる科学絵本。



おどりトラ 韓国・朝鮮の昔話

(こどものとも世界昔ばなしの旅)

金森 襄作 再話

鄭 【スク】香 (ちよん・すくひゃん) 画

福音館書店 1997年 Eチ

31P 27×20cm 絶版

おどりの大好きなトラがいた。笛や太鼓の音がきこえると手足がひとりりで動き出す。ある時、一人の木こりを柳の木まで追いつめたトラたちは、順々に肩の上にのり「トラばしご」を作って木の上の木こりをつかまえようとする。ところが、木こりが柳の小枝で作った笛を吹きはじめると……。ユーモアのあるお話と迫力のある画面、どこかおかしみのあるトラの表情が、印象的な絵本。



おにたのぼうし

(おはなし名作絵本)

あまん きみこ ぶん

いわさき ちひろ え

ポプラ社 1969年 Eイ

32P 25×22cm 1,000円

鬼は、悪ものと、ついついそう思いがちだが、この絵本は、おにたという名前の気のいい子鬼の物語。

節分の日、豆まきをしていない家を見つけ、はいり込んだおにたは、病気で寝ているお母さんとその娘のはなしを聞いてしまう。おにたは、娘のために食べ物をお届けが……。いわさきちひろの叙情的な絵とともに、おにたのことが心に残る一冊。



おばあちゃんとわたし

(あかねせかいの本)

シャーロット・ゾロトウ 作

掛川 恭子 訳

ジェームズ・スチブンソン 絵

あかね書房 1986年 Eス

24P 26×21cm 入手不可

I know a lady (1984)

サリーの家の近くに、おばあちゃんが一人で住んでいる。花を育て、お菓子を作り、動物にも優しく、身ざれいで、いつもにっこり笑っている。一人の女性として見ても、このおばあちゃんは魅力的な人に違いない。そんなおばあちゃんを見て、サリーだけでなく、読者も、おばあちゃんみたいになれるといいなと思うだろう。

絵も色彩も、おばあちゃんの人柄そのままに穏やかで明るい。



おはなしおはなし アフリカ民話より

ゲイル・E・ヘイリー さく

あしの あき やく

ほるぷ出版 1976年 Eへ

36P 26×26cm 絶版

A story a story (1970)

昔、世界中どこにもおはなしがなかった。それは、空の王者ニヤメが、おはなしをひとつ残らず一人占めしていたから。アナンセはおはなしを買いとるため、ニヤメの難題を次々に解決していく。

アフリカの民話には、クワク・アナンセというクモ男がよく登場する。この絵本は、アフリカの雰囲気美しい木版画で表現している。アナンセやニヤメのおおらかな表現もよい。



おまたせクッキー

友だちとたのしいおやつ！

パット=ハッチンス さく

乾 侑美子 やく

偕成社 1987年 E八

24P 21×26 cm 1,200円

The doorbell rang (1986)

おかあさんが焼いたクッキーは、12枚。ピクトリアとサムが6枚ずつ食べようとすると、玄関のベルが鳴る。友だちが2人、また2人、それから6人とやって来て、クッキーは1人1枚ずつに。今度こそ食べようとすると、またベルが鳴り……。分けっこする時のハラハラする気持ち、皆で分かちあう楽しさが伝わってきて、読者も、お皿とドアの向こうから目が離せない。



かえでがおか農場のいちねん

アリス・プロベンセン さく

マーティン・プロベンセン さく

きしだ えりこ やく

ほるぷ出版 1980年 Eブ

38P 32×24 cm 1,800円

The year at maple hill farm (1978)

ニューヨーク近郊の農場で、ガチョウやシカ、ニワトリ、ネコ、ヒツジ、アヒルなどに囲まれてくらす作者の目を通して描かれた、かえでがおか農場の1月から12月までの1年間の物語。

単純な線と穏やかな色彩で、美しい自然と動物たちの情景をユーモラスに表現しあたたかく描いている。大人も子どもも動物たちも、皆がかけがえのない存在であることに気づかせてくれる本。



かたあしだちょうのエルフ

(おはなし名作絵本)

おのき かく ぶん・え

ポプラ社 1970年 Eオ

32P 25×22cm 1,000円

強くて大きなだちょうのエルフは皆の人気者。ところが、子どもたちを守るためライオンと戦ったエルフは、片足をなくしてしまう。

片足で大地に立ち、死を待つだけのエルフ。ある日、黒ヒヨウに襲われた子どもたちを守ってくれたのは、木になったエルフだった。

ギラギラと照りつける太陽と、そこで生きる動物たちの様子が、版画でダイナミックに表現されている。



神の道化師

トミー・デ・パオラ さく

ゆあさ ふみえ やく

ほるぷ出版 1980年 Eデ

48P 29×22cm 1,400円

Clown of God (1978)

ただ一つの芸だけで、ジョバンニは生きてきた。その芸は人々を楽しませ、どこへ行っても喜ばれた。しかし、時がたちジョバンニが老いていくと、人々はもう見向きもしなくなった。自分にできるただ一つのささげ物として、聖母子像の前で最後の芸を披露するジョバンニ。人生と信仰という、1、2年生にはとらえにくいテーマの作品だが、子どもたちは、厳粛で崇高なものを感じとるだろう。



きたきつねのゆめ

(北の森から)

手島 圭三郎 絵・文

リブリオ出版 2001年 Eテ

41P 31×22cm 1,700円

静かで寒い冬の森、凍るような空気と冷たい月明かりの中をゆくきたきつねの姿。樹氷が見せてくれる幻想的な世界。そこから広がる、母さんや兄弟たちとの楽しい日々の思い出。それらが、色彩の変化とともに鮮やかに描き出されている。大自然の厳しさと暖かさ、生きるものの力強さとが、見事に表現された手島圭三郎の版画絵本。

他に「しまふくろうのみずうみ」も、ぜひすすめたい。



きつねのホイティ

(世界傑作絵本シリーズ)

シビル・ウェッタシンハ さく

まつおか きょうこ やく

福音館書店 1994年 Eウ

43P 31×23cm 1,300円

Hoity the fox (1994)

スリランカのちいさな村に住んでいる三人の元気のいいおかみさんを相手に、くいしんぼうギツネのホイティが、ごちそうを手に入れようとして、だましたつもりがだまされて……、ユーモアたっぷりに描かれている。色彩の美しさとりズミカルな絵が楽しい。

又、珍しい草木や生活の違いなど、お国がらがうかがえて、見るたびに新しい発見が楽しめる作品である。



キリンさん

(まど・みちお詩のえほん)

まど みちお 詩

南塚 直子 絵

小峰書店 1998年 Eミ

27P 24×25cm 1,500円

子どもたちがよく知っている「ぞうさん」の他に、「くまさん」「きりんさん」「うさぎ」など、生き物の命と喜びをうたう、まどみちおの詩が13編。ゆっくりと口に出して読みながら、言葉のリズムや詩の楽しさを味わいたい。

淡く明るい南塚直子の銅版画も、子どもをひきつけ、それぞれの詩の雰囲気によくあっている。



クリスマスのまえのばん

(世界傑作絵本シリーズ アメリカの絵本)

クレメント・C・ムーア ぶん

わたなべ しげお やく

ウィリアム・W・デンスロウ え

福音館書店 1996年 Eデ

52P 29×23cm 1,800円

Denslow's night before Christmas (1902)

クリスマスのまえのばんに、とうさんが見たものは、トナカイの引くソリに乗って空からやってきた陽気なこびとのおじいさん。くりくりした目、バラ色のほお、まあるいおなか……。

子どもたちに贈り物を届けるセントニコラスの元気でゆかいな様子が、楽しい詩と美しい絵で生き生きとあらわされ、クリスマスを待ち望む子どもたちのワクワクした気持ちが伝わってくる。



げんきなマドレーヌ

(世界傑作絵本シリーズ アメリカの絵本)

ルドウヒ・ペーメルマンズ 作・画

瀬田 貞二 訳

福音館書店 1972年 Eベ

46P 31×23cm 1,300円

Madeline (1939)

パリのある古い屋敷に12人の女の子が暮していた。2列になって食事をし、歯をみがき、ベットに入り、雨が降ろうが晴れようが、9時半には散歩する。一番おちびさんがマドレーヌ。でもネズミも動物園のトラも恐れぬ元気者。それがある夜、突然.....。

黄色地に黒の線画は、明るくおしゃれ。シリーズに「マドレーヌといぬ」「マドレーヌといたずらっこ」他がある。



子うさぎましろのお話

(おはなし名作絵本)

ささき たづ ぶん

みよし せきや え

ポプラ社 1970年 Eミ

32P 25×22cm 1,000円

子うさぎのましろは、サンタのおじいさんに「プレゼントをまだもらっていない」とウソをついて、一粒の種をもらう。後悔したましろが、神様に返そうと土の中へ埋めた種は、やがてきらきら輝く一本のもみの木に育つ。毎年クリスマスになると、その木にプレゼントがなり、金や銀のベルの音が鳴りひびく。

あたたかい線で描かれた絵も美しい。



ごきげんならいおん

(世界傑作絵本シリーズ)

ルイーズ・ファティオ ぶん

ロジャー・デュボアザン え

むらおか はなこ やく

福音館書店 1964年 Eデ

32P 26×21 cm 1,000円

The happy lion (1954)

フランスの街の動物園に住む、ごきげんならいおんは、街のみんなに愛されている。毎朝毎晩あいさつしてくれるし、ご馳走だってもってきてくれる。ある日、飼育係が閉め忘れた扉から街にでてみると……。らいおんが引き起こす珍騒動の中で、確かな友情と信頼が浮かび上がってくる。ユーモラスな絵は、モノクロと彩色を交互にくり返し、快適なリズムを作りだしている。



言葉図鑑 1 ことばがいっぱい

うごきのことば

五味 太郎 監修・制作

偕成社 1985年 Eゴ

36P 31×25 cm 1,200円

この本は、話しことばのふえはじめた幼児から小学生におくることばのパノラマ図鑑である。人や物の動作・作用をあらわす言葉(動詞)を子どもたちの生活風景の中に約570語集めてのせてある。

絵を見るだけでも楽しいが、言葉の意味や使い方を発見できるおもしろさもある。「言葉図鑑」は、言葉の性質やはたらき別に、10巻にまとめられている。



こねこのぴっち

(大型絵本)

ハンス・フィッシャー 文・絵

石井 桃子 訳

岩波書店 1987年 Eフ

36P 23×33 cm 1,500円

Pitschi (1953)

こねこのぴっちは、父さん母さん兄弟、それに犬など大勢の動物達と一緒にリゼットおばあさんに飼われている。ある日、ぴっちは一人で出かけ、かっこいいオンドリや、やさしいヤギのまねをしてみる。あげくの果て、アヒルのまねをして池でおぼれる。その夜、ぬれたままでウサギ小屋でねていると、やってきたのは……。動物たちが、繊細なタッチでほほえましく生き生きと描かれている。



こびとのくつや グリム童話

グリム 原作

バーナデット・ワッツ 絵

ささき たづこ 訳

西村書店 1987年 Eウ

24P 33×25 cm 1,500円

Die Wichtelmänner (1986)

貧しいくつ屋が夜、皮を裁っておくと、朝には見事なくつが出来上がっている。くつ屋の夫婦が夜中こっそり見はっていると、はだかの小人が二人、どこからか現れ、せっせとくつを仕上げているのだった。くつ屋の夫婦が、お礼に小人たちの服やくつを作ってあげると……。クリスマスらしい、不思議と優しさにあふれたグリムの昔話。ワッツの絵もあたたかみがあり、美しい。



さあみんなついておいで！

ブライアン・ワイルドスミス 作・絵

長瀬 礼子 訳

太平社 1988年 Eワ

32P 31×25cm 2,200円

Goat's trail (1986)

山のふもと町の町から楽しげな音がきこえてきた。音にひかれて山をおりたヤギは、途中で出会うヒツジやウシ、ブタ、ロバを次々にさそい、みんなで町のホールや学校にとびこむ。おかげで町中大さわぎ。

くり抜かれた窓からチラッと見える動物や景色の面白さに、ページをめくる楽しさがある。山から森へ、色とりどりのにぎやかな町へと移り変わっていく画面もあざやかだ。



さっちゃんの手

たばた せいいち [ほか] 共同制作

偕成社 1985年 Eサ

40P 27×19cm 1,200円

ままごとあそびでお母さん役になったさっちゃん。「手のないお母さんなんて変だ」と友達に言われ、幼稚園をとび出して家まで走って帰った。はじめて自分の右手の障害を意識した。

相手の立場を理解し思いやりの心がもてるようになればどんなにいいだろう。さっちゃんと手をつないだら不思議な力が体いっぱいになる。さっちゃんの手はまほうの手だ。



サリーのこけももつみ

(大型絵本)

ロバート・マックロスキー 文・絵

石井 桃子 訳

岩波書店 1986年 Eマ

54P 23×29 cm 絶版

Blueberries for Sal (1948)

ある日、サリーとお母さんは、山にこけももをつみに出かける。冬食べるジャムを作るのだ。熊の親子も、冬ごもりに備えてこけももを食べに来ていた。こけももに夢中な二組の親子は、いつかはぐれ、気がつくとサリーと子ぐまが入れかわっていた！どきどき、はらはらの結末は.....？ページをめくるたびに、群青色の雄大な世界が広がる。すみからすみまでじっくりながめて楽しめる本。



さるとわに ジャータカ物語より

ポール・ガルトン え

きたむら よりはる やく

ほるぷ出版 1976年 Eガ

32P 30×24 cm 絶版

The monkey and the crocodile (1969)

さるとわにの知恵くらべ。森の中を流れる川に住んでいるわにと、川のほとりの木に住んでいるさる。若いわには、さるをつかまえて食べてしまおうと考えて、さるをだまそうとするが、さるはそのたびに知恵をはたらかせる。

インドのジャータカ物語より、絵本になったおはなし。ガルトンのおおらかな絵。さるとわにの表情も楽しい。



じごくのそうべえ

桂米朝・上方落語・地獄八景より

(童心社の絵本)

田島 征彦 作

童心社 1978年 Eタ

40P 26×26cm 1,400円

死んで地獄に落ちた4人が助けあい、それぞれ自分の特技によって、地獄の鬼やえんま大王をやりこめる。

ストーリーの展開の意外性が、実に面白くて楽しい。最後は、地獄から追い出され、しゃばにかえされる。

上方落語、地獄八景を絵本にしたもの。田島征彦の描くえんま大王や赤鬼青鬼が、生き生きとして楽しい。



島ひきおに

(創作大型えほん)

梶山 俊夫 絵 山下 明生 文

偕成社 1973年 E力

31P 29×25cm 1,400円

鬼は悪者、強いものと相場は決まっているのに、この島にひとり住む鬼は、優しくて寂しがりや。自分の島をひっぱってきたら一緒にくらしでもいい、という漁師のことは信じ、島ごと引越す。しかし、誰からも体よく断われ、鬼はまた、ひとりぼっちとなる。

島をひきずり、あてどなく海をさまよう悲しげなさがり目の赤鬼は、きっと子どもの心を捉えて離さないだろう。



ジャイアントジャムサンド

ジョン・ヴァーノン・ロード ぶん・え

安西 徹雄 やく

アリス館 1976年 E口

32P 20×26 cm 1,300円

The giant jam sandwich (1972)

チクチクむらにとんできた、400万匹のハチの大軍。どうにもこうにも、もうたまらん！そこで、パンやさんがおもいついたすばらしいハチ退治。それは、ジャイアント・ジャム・サンド！

村人たちが総出でくりひろげる巨大なジャム・サンド作り。横長の画面を効果的に使い、軽快なタッチの絵とリズムカルな文があいまって、読者を存分に楽しませてくれる。



ジャムつきパンとフランシス

(フランシス絵本シリーズ)

ラッセル・ホーバン さく

リリアン・ホーバン え

まつおか きょうこ やく

好学社 1972年 Eホ

36P 26×21 cm 971円

Bread and jam for Frances (1964)

食はずぎらいで、大好きなジャムつきパンしか食べようとしないうフランシス。だが、おとうさんとおかあさんは、決して無理矢理ほかの物を食べさせたりしない。フランシスは、思いどおりひとりだけジャムつきパンを食べ続けるが...。フランシスが口ずさむ歌に、心境の変化が見事に表れている。子どもの心の成長と、横でそっと見守る家族のあたたかさが伝わってくる。他にシリーズがある。



スイミー

ちいさなかしこいさかなのはなし

レオ・レオニ 作

谷川 俊太郎 訳

好学社 1969年 Eレ

32P 28×23cm 1,456円

Swimmy (1963)

小さなさかなスイミーの住む海の世界は、広大で美しく不思議な生きものであふれている。いろいろなものに出会う喜びと驚きのなかで、スイミーは、海は小さなさかなにとって、わくわくするばかりでなく危ないところであることも知る。

幻想的な絵が美しく、スイミーの知恵と 勇気は、見る者を感動させる。



すきですゴリラ

(あかねせかいの本)

アントニー・ブラウン 作・絵

山下 明生 訳

あかね書房 1985年 Eブ

32P 22×28cm 1,359円

Gorilla (1983)

ハナはゴリラが大好き。誕生日のプレゼントにもらったおもちゃのゴリラが、真夜中に孤独なハナの夢をかなえてくれた。ところが、ハナが目をさますと、もっとうれしいことが.....。

ていねいに描かれた絵の、いたるところにゴリラの絵があるのも楽しい。ユーモアたっぷり、心やさしさあふれる絵本。



杉山きょうだいのシャボンだまとあそぼう

(かがくのとも傑作集)

杉山 弘之・杉山 輝行 文と構成

福音館書店 1993年 Eス

27P 26×23cm 838円

身近なもので、シャボンだまをつくろう。

ストローで、はりがねで、あわだてきで、サンダルで……。なにもなければ、手でだってできる。

見開きいっぱい、シャボンだまとおどるようにあそび子どもたちの写真絵本。イラスト入りのあそび方の説明と、巻末には、じょうずなシャボン液のつくり方がついている。



ずーっとずっとだいすきだよ

(児童図書館・絵本の部屋)

ハンス・ウィルヘルム えとぶん

久山 太市 やく

評論社 1988年 Eヴ

30P 19×23cm 1,000円

I'll always love you (1985)

ぼくと一緒に大きくなった犬のエルフィー。一緒に夢を見て一緒に遊んだ。でも、ぼくが大きくなるにつれてエルフィーはだんだん年をとり、やがて階段ものぼれなくなり、そしてある朝……。

愛するものを失った悲しみをいやしてくれるのは、共に暮らした日々と、愛情を言葉で相手に伝え続けてきたことなどだと、静かに心にしみ入るように教えてくれる絵本。



スーホの白い馬 モンゴル民話

(日本傑作絵本シリーズ)

大塚 勇三 再話

赤羽 末吉 画

福音館書店 1967年 Eア

48P 23×31cm 1,200円

モンゴルの楽器、馬頭琴の由来を伝える民話。殿さまに力づくで取りあげられた白い馬は、追っ手の矢に傷つきながらも、スーホのもとに逃げ帰り力尽きる。スーホは馬の骨や皮で馬頭琴を作り、悲しみを音に託す。

赤羽末吉の迫力あるタッチで、横長大判いっぱい描かれたモンゴルの大草原、はてしない地平線。哀切な物語とともに心に残る。



せかいにパーレただひとり

イエンス=シースゴール さく

アルネ=ウンガーマン え

やまのべ いすず やく

偕成社 1978年 Eウ

40P 22×14cm 1,200円

Palle alene i verden (1974)

ある朝、目をさますと、パーレは世界中でたったひとりになっていた。だれもいないなんておもしろいな。外へ出たパーレは、お店でおかしやりんごを食べ放題。バスの運転もする。でもパーレは、だんだんつまらなくなってきた。友達が誰もいないし、お父さん、お母さんにも会いたい。目がさめたパーレは、全てが夢だったことを知る。家族や友達の大切さを、思い出させてくれる本。



ぞうのババール

こどものころのおはなし

(ぞうのババール 1)

ジャン・ド・ブリュノフ さく

やがわ すみこ やく

評論社 1974年 Eブ

48P 28×21cm 1,200円

Histoire de Babar (1931)

ババールは、母親を撃った狩人から逃げだし、街へたどりつく。そこで、ぞうの気持ちなら何でもわかるおばあさんに出会い、服を着て人間の暮らしを始めるが……。子どもの頃に母親を亡くすという悲しみを、人との出会いを通して、前向きな姿勢で乗りこえ、成長していくババールの姿は魅力いっぱい。優しく淡々と語る文章が、生きることの素晴らしさを伝えてくれる。シリーズ第1作目。



ぞうのホートンたまごをかえす

ドクター＝スース さく・え

しらき しげる やく

偕成社 改訂2版 1985年 Eド

49P 29×22cm 2,200円

Horton hatches the egg (1940)

たまごをあたためるのに飽きたなまけ鳥のメイジーは、正直もののぞうのホートンに代わりを頼む。それっきり帰らないメイジー。約束を守り通し、木の上でたまごをあたため続けるホートン。

調子のいい文章とユーモラスな絵で、あれよあれよという間に話が進む。奇抜な着想が光る空想物語だが、正直者がむくわれるアツと驚く結末がうれしい。



空飛ぶ船と世界一のばか

ロシアのむかしばなし (大型絵本)

アーサー・ランサム 文

ユリー・シュルヴィッツ 絵

神宮 輝夫 訳

岩波書店 改版 1986年 Eシ

47P 24×27cm 絶版

The fool of the world and the flying ship (1968)

母親には大切にされなかった三番目のむすこだが、無邪気でほからかな彼は、旅先で空飛ぶ船を手に入れ、出会った人達と一緒に旅を続けていく。そして、人間離れした得意技を持つ彼らに助けられ、王女と結婚するために、次々と難問をといていく。

豊かなロシアの田園を舞台に、大空を駆けまわる主人公とその仲間たちが色彩あざやかに描かれている。大人が読んであげてほしい。



太陽へとぶ矢

インディアンにつたわるおはなし

ジェラルド・マクダーモット さく

じんぐう てるお やく

ほるぷ出版 1975年 Eマ

40P 25×29cm 1,400円

Arrow to the sun (1974)

男の子は、父である太陽の神に会うために、一本の矢となって太陽へ飛んでいく。四つの試練を乗り越え、太陽の息子と認められた男の子は、再び地上へ戻って来る。人間の国に、太陽の心を届けるために.....。

アメリカ先住民族に伝わるお話で、勇気と希望に満ちている。あざやかな色とざん新な絵が魅力的。



ターちゃん と ペリカン

ドン・フリーマン さく
さいおんじ さちこ やく
ほるぷ出版 1975年 Eフ
44P 23×28cm 1,500円
Come again pelican (1961)

夏休み、毎年家族で訪れる海で、ターちゃんはペリカンと再会する。初めて釣りをするターちゃんに、さかなとりのお手本を見せるペリカン。夢中になっていると、いつのまにか新しい長ぐつが流されてしまい.....。

一貫して子どもの世界を描き続けているドン・フリーマンのさりげないタッチの絵が、夏の花辺の微妙な光の変化を、詩情豊かにとらえている。



たなばた

(こどものとも傑作集)
君島 久子 再話
初山 滋 画
福音館書店 1977年 E八
26P 20×27cm 743円

うしかいとおりひめは、二人の子どもたちと幸せに暮らしていた。しかし、天女だったおりひめは天へ帰らなければならなくなる。おりひめを追いかけ天の川までやってきた三人は、波のさかまく川の水をくみ干そうとする。あわれに思った天の神様は.....。中国で語りつがれた、七夕の起源を伝える話である。夏の夜空を飾る星たちの伝説は神秘的で、淡いピンクやブルーを基調にした絵も美しい。



タンゲくん

(日本傑作絵本シリーズ)

片山 健 作

福音館書店 1992年 E力

32P 29×21cm 1,200円

ある日、突然わが家にやってきた片目のオス猫は、当然のように私のひざの上に座った。私だけになつた猫、タンゲくん。

外では他人みたいによそよそしいけれど、うちでは掃除機を怖がり、満月の夜は狂ったようにそこら中をかけ回る。ちょっとヘンなタンゲくんがだーい好き！

インパクトの強い絵が、なんととっても楽しい。



ちいさいおうち

(大型絵本)

ばーじにあ・リー・ばーとん ぶん・え

いしい ももこ やく

岩波書店 1965年 Eバ

40P 24×25cm 1,600円

The little house (1942)

丘の上に小さいおうちがあった。春はリンゴの花が咲き、夏はひなぎくで野原はまっ白になった。秋の紅葉、冬の雪景色を見ながら過ごしてきた。月日が流れ、家の周りには何十階ものビルが建ち、地下鉄も走るようになった。お日さまが見えるのはお昼だけ。季節もわからない。ある日、とり残されたこの家を見て、立ち止まる人がいた……。50年以上も愛され読みつがれてきた絵本。



ちいさなもみのき

(世界傑作絵本シリーズ アメリカの絵本)

マーガレット・ワイズ・ブラウン さく

バーバラ・クーニー え

かみじょう ゆみこ やく

福音館書店 1993年 Eク

34P 22×20cm 1,100円

The little fir tree (1954)

森から離れて立つ小さなもみの木は寂しかった。足の不自由な息子に力強く生きてほしいとねがう父が、クリスマスにそのもみの木を持ち帰る。美しく飾られたもみの木を囲んで、子どもたちの歌声が響く。森に戻されたもみの木が次のクリスマスに見たものは.....。

クリスマスカラーに彩られた絵も美しく、キャロルを歌う子どもたちの表情も明るい。



チキン・サンデー

パトリシア・ポラッコ 作

福本 友美子 訳

アスラン書房 1997年 Eポ

32P 29×23cm 1,500円

Chicken Sunday (1992)

隣に住むユウラおばあちゃんは、二人の孫と「わたし」にとってかけがえのない人。私たちは、大好きなおばあちゃんに贈り物をするため帽子屋へ行くのだが、店にいたずらした犯人にまちがえられ、おばあちゃんを悲しませることに。果して子どもたちは、おばあちゃんの喜ぶ顔を見ることができるのか.....。

おばあちゃんと子どもたちのつながりを、心豊かに伝える絵本。



ちびっこひぐま

ジョン・ショーエンヘル 作

くどう なおこ 訳

偕成社 1993年 Eシ

31P 29×22cm 1,400円

Bear (1991)

ある朝、目を覚ますと、いつもそばにいたお母さんがいない。ひぐまの子は、生きるためにきびしい試練を乗り越えなければならない。

極北の地アラスカの、壮大な自然の中できり広げられる、ひぐまの子の成長のドラマは、その迫力に胸せまるものがある。

たくましく成長し、遠くを見つめて立つひぐまの雄々しい姿は、自信に満ちている。



チムとゆうかんせんちょうさん

(世界傑作絵本シリーズ イギリスの絵本)

エドワード・アーディゾーニ さく

せた ていじ やく

福音館書店 新版2001年 Eア

48P 27×20cm 1,300円

Little Tim and the brave sea captain (1936)

海洋冒険絵本、チムシリーズ(11巻)の一冊。こっそり船に乗り込んだ少年チムは、よく仕事をこなし、大人達の信頼を得て行くが、船は嵐で難破してチムと船長がとり残される。二人が最後の覚悟をした、そのとき……。迫力ある物語は、読む人を夢中にさせ、冒険や海への憧れをかきたてる。モノクロと水彩の絵が、海や人を生き生きと描き出している。



チャンティクリアときつね

ジェフリー・チョーサー げんさく

バーバラ・クーニー ぶん・え

ひらの けいいち やく

ほるぷ出版 1975年 Eク

36P 26×19cm 1,600円

Chanticleer and the fox (1958)

きつねの甘言にのせられた気位の高いおんどりが、森へつれこまれる寸前、きつねをだましてうまく逃げだすという動物物語。

緑と赤と黄色を基調にして描いた、のびやかな温かさを感じさせるページと、赤と黒だけのちょっと緊張感を出したページとのコントラストが、この本のストーリーを生き生きと伝えている。

14世紀の原作の雰囲気感を忠実に描いている。



天使のクリスマス

ピーター・コリントン さく

ほるぷ出版 1990年 Eコ

32P 28×23cm 1,400円

On Christmas Eve (1990)

サンタさんはなぜ、子ども達の願いをちゃんとわかっているのだろうか？この本は、そんな疑問にひとつの答えを与えてくれる。子ども達の願いがきちんとかなうよう、天使がなんとも細やかに働いている様子が丁寧に描かれている。子どもの幸せのために、心をこめて飛び回っている天使の姿を見て、この本を読んだ子どもは、きっと、とても満たされた優しい気持ちになっていくことだろう。



天の火をぬすんだウサギ

(児童図書館・絵本の部屋)

ジョアンナ・トゥロートン さく

山口 文生 やく

評論社 1987年 Eト

32P 27×20cm 1,000円

How rabbit stole the fire (1979)

昔、地上には火がなく、動物達は冬の寒さに震えていた。そこで、動物達は高い山に住む天の人の所から火を盗んでこようと相談をした。でかけることになったのは一番賢いウサギ。もえやすいマツヤニを塗った羽飾りで帽子を作ったウサギの作戦は？

北米先住民族の「火のおこり伝説」を元に、「なぜ動物がそうなった」の話を加えた楽しい絵本。



どうぶつはいくあそび

きしだ えりこ 作

かたやま けん 絵

のら書店 1997年 Eカ

71P 16×12cm 1,300円

日本に昔からあった一番短い詩、俳句。五・七・五の十七文字に、いろいろな思いをこめて詠んだ動物達の俳句が、春、夏、秋、冬と四季折々に30編。全ての句にカラフルな挿絵と、うそをつかない真面目なかわうそのうそはちの感想がついている。動物達の特性を生かした感性豊かな俳句と、句とピッタリあった挿絵が楽しい小型の絵本。



10までかぞえられるこやぎ

(日本傑作絵本シリーズ)

アルフ・ブリョイセン 作

山内 清子 訳

林 明子 絵

福音館書店 1991年 E八

32P 24×26 cm 1,100円

Geitekillingen som kunne telle til ti (1954)

10まで数えられるようになったこやぎが、散歩に出た野道でいるんな動物と出会う。そのたびに数をかぞえてしまい、思わぬ災難にあってしまう。ナンセンスなくり返しに、思わずふき出しそうになる楽しい絵本。でも、最後には、「芸は身を助ける」というようなエピソードもちゃんと用意されている。



とべバッタ

(創作大型えほん)

田島 征三 作

偕成社 1988年 E夕

35P 25×31 cm 1,400円

恐ろしい天敵から身を守るため、小さな茂みに隠れ住んでいたバッタが、意を決して、たくさんの怖い虫や鳥たちを突き抜けて、大空へはばたいていく話。

他人にどう思われようが、自ら決めたことを貫いていくバッタの思いが、飛び立つバッタの躍動感とともに、画家でもある作者の独特で、迫力ある絵から伝わってくる。



どんぐりかいぎ

(かがくのとも傑作集)

こうや すすむ 文

片山 健 絵

福音館書店 1995年 E力

28P 26×23cm 838円

どんぐりの森の中では、どんぐりがたくさんなる年と少ししかならない年が、1年おきにくる。どうして「なりどし」と「ふなりどし」があるのか？その問いかけに作者は、自然の摂理と動物の生態をやさしいことばで語る。

両開きの豪快な絵で、どんぐりの木にも動きが感じられる。楽しく自然を理解できる一冊。



ねこのオーランドー

(世界の傑作絵本シリーズ イギリスの絵本)

キャスリーン・ヘイル 作・画

脇 明子 訳

福音館書店 1982年 Eへ

32P 37×27cm 絶版

Orlando the marmalade cat; a camping holiday (1959)

ねずみとりの仕事にちょっと長めのお休みをもらい、キャンプにでかけたねこのオーランドー一家のお話。自分の飼い猫をモデルに作っただけあって、文章にも絵にも、温かいまなざしが感じとれる。

見開きいっぱい描かれたキャンプ地の地図や小動物の絵などが想像をかき立て、何度開いても新しい発見がある。絵とともに、文章もじっくり味わいたい大型絵本。



ねずみじょうど

(こどものとも傑作集)

瀬田 貞二 再話 丸木 位里 絵

福音館書店 1971年 Eマ

27P 27×20cm 743円

そばもちを追いかけていったじいさんが、ねずみに導かれて行った先で見たものは……？響きがよく、わかりやすい日本語で書かれた文は、声に出して読むとますます面白い。挿絵は素朴で味わいがあり、ダイナミックで読者を飽きさせない。昔話のもつ楽しさを、たっぷり味わわせてくれる一冊。墨絵を主体とし、その中に人物等を浮かだしてあり、おさえた色づかいが浄土を感じさせる。



ねむりひめ グリム童話

(世界傑作絵本シリーズ スイスの絵本)

グリム 原作 フェリクス・ホフマン 絵

せた ていじ やく

福音館書店 1963年 Eホ

31P 31×22cm 1,300円

Dornröschen (1959)

待望の王女の誕生に大喜びの王様とお妃様。しかし、お祝いの宴会に一人だけ招かれなかったことを恨んだ占い女が、「姫は15歳になったら、つむにさされて死ぬ」という呪いをかけてしまった。姫を心配する王様は、国中のつむを焼き捨てるが……。スイスの画家ホフマンが、気品あふれる絵でグリム童話を描いている。日本語訳も簡潔でありながら、荘厳な雰囲気がよく伝わるものとなっている。



はじめてのかり

(絵本アフリカのどうぶつたち 第1集)

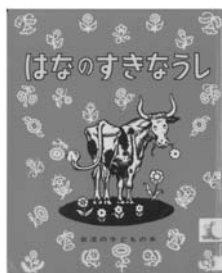
吉田 遠志 絵と文

リブリオ出版 2001年 Eヨ

32P 22×31cm 1,700円

若い3匹のライオンが初めての狩りに出かける。その中で、アフリカに生きる動物達の姿や自然界のおきてなどが、見開きいっぱい生き生きと描かれている。ものすごい速さで駆けぬけるチーターや逃げだすヌーの群れなど、スピード感あふれる絵がすばらしい。

暗闇の中、目を光らせたヒョウの姿など、真に迫るものがあり、動物を通して生きることの厳しさ、命の尊さを教えてくれる。



はなのすきなうし

(岩波の子どもの本)

マンロー・リーフ おはなし

ロバート・ローソン え

光吉 夏弥 やく

岩波書店 1954年 E口

70P 21×17cm 640円

The story of Ferdinand (1936)

昔、スペインにフェルジナンドという子牛がいた。草の上に座って花の匂いをかぐのが大好きなフェルジナンドをおかあさん牛は、あたたかくみまもっていた。ある日、ハチにさされ大暴れしたことで、闘牛の試合をさせられることとなる。だが、見物の女の人の髪にさした花の匂いをかぐばかりで、一向に戦おうとしなかった。そして、大好きな故郷へと帰される。争うことが嫌いな牛の話。



ピーターラビットのおはなし

(ピーターラビットの絵本 1)

ビアトリクス・ポター さく・え

いしい ももこ やく

福音館書店 新版 1988年 Eボ

55P 15×11 cm 700円

The tale of Peter Rabbit (1902)

ある日、いたずらっこのピーターが、畑で野菜を食べているところをマグリガーさんに見つかって……。ピーターの冒険は、そのまま読んでいる子どもの心をひきつける。

ソフトで美しい水彩画の世界の中で、ピーターと仲間たちの愉快的な物語が生き生きと描かれている。

シリーズは24巻和訳されている。



びりのきもち

阪田 寛夫 詩

和田 誠 絵

童話館出版 1998年 Eワ

40P 27×20 cm 1,400円

友だちや学校、家族や日常のことなどを子どもの気持ちそのままにうたった17編の詩。どの詩も素朴でやさしく、ユーモアにあふれていて、心がポツとあたたかくなる。「サッチャン」「おなかのへるうた」などの、うたいなれた歌も一編の詩として口ずさむと、また違った発見がある。和田誠のシンプルな挿絵は、子どもの素直な気持ちを表現した詩によくあっていて楽しい。



ふたりはともだち

アーノルド・ローベル 作

三木 卓 訳

文化出版局 1972年 E口

64P 22×15cm 854円

Frog and toad are friends (1970)

がまくんとかえるくんは、とっても仲よし。がまくんはがまくんらしく、かえるくんはかえるくんらしく、ちっとも無理なんかしないけれど、とても仲がいい。「友達って何だろう？」なんて考えたりしたら、ちょっと読んでみてほしい。そのままの自分でいて、お互いを受けとめられる、そんなステキな関係に、心がホッとあたたまって、やさしい気持ちになれる。



ブレーメンのおんがくたい グリム童話
(世界傑作絵本シリーズ スイスの絵本)

グリム 原作

ハンス・フィッシャー エ

せた ていじ やく

福音館書店 1964年 Eフ

30P 31×22cm 1,300円

Die Bremer Stadtmusikanten (1948)

年をとり、人間の役に立たなくなった口バ、イヌ、ネコ、オンドリは、殺される運命から逃げ出した。音楽隊を作ろうと旅を続ける途中で4匹が見つけたのは泥棒の家。4匹が力をあわせて泥棒たちを追い出して、幸せな老後を送るというグリム童話。

美しい色彩で描かれた楽しい絵は、作者が、娘のクリスマスプレゼントに描いた作品である。



ペレのあたらしいふく

(世界傑作絵本シリーズ スウェーデンの絵本)

エルサ・ベスコフ さく・え

おのでら ゆりこ やく

福音館書店 1976年 Eベ

16P 24×32cm 1,100円

Pelles nya kläder (1970)

上着が短くなったペレは、新しい服を手に入れるために、村の人々を次々と訪ねる。自分の子羊から刈り取った毛が、何人も人の手を経て一着の美しい青い服に仕立てられる。この過程が、おさえた色調、穏やかな人々の表情、豊かな自然の中に描かれている。

新しい服を着て、子羊に「ありがとう!」というペレの笑顔が、とてもさわやかで、ペレの満足感を読者も味わうことができる。



マーシャとくま ロシア民話

(世界傑作絵本シリーズ ソビエトの絵本)

E・ラチョフ え

M・プラトフ さいわ

うちだ りさこ やく

福音館書店 1963年 Eラ

12P 28×23cm 800円

森で一人はぐれてしまったマーシャは、大きなくまの家に迷い込んでしまう。しかし、頭を働かせたマーシャは、くまをだまして自分の入ったつづらを運ばせ、無事に家へとたどり着く。マーシャが入っているとは知らずにつづらを運ぶくまとのやりとりがリズムミカルで楽しい。ロシアの深い森を描いたラチョフの絵が味わい深いのが、絵の枚数が少ないため文章と一致しない部分もある。



まちんと

(新編・絵本平和のために)

松谷 みよ子 文

司 修 絵

偕成社 改訂1983年 Eツ

31P 25×22cm 1,200円

原爆に傷ついた幼い子どもが、トマトを口に入れてもらうと、「まちんと、まちんと」と言ってあとをねだった。「まちんと、まちんと」とつぶやきながら、その幼子は鳥になった.....。

「戦争を語りつくということは説明をすることではない」と作者の松谷みよ子が言っているように、戦争という行為のおろかさやその痛みが読者に重く伝わってくる。



マンモスの謎

アリキ 作

千葉 茂樹 訳

あすなる書房 1997年 Eブ

32P 29×24cm 1,300円

Wild and woolly mammoths (1977)

マンモスって知ってる？ 巨大な牙と長い鼻、体中をおおうゴワゴワの長い毛.....。マンモスといえば、その巨大な体のイメージはよく知られているが、一体、どんな生きものだったのだろうか？そして氷河期の厳しい寒さをも生きぬいてきた彼らは、なぜ絶滅してしまったのだろうか.....。この本には、かつて地球上で最も大きな動物だった彼らのことが、愛情込めて、わかりやすく描かれている。



モチモチの木

(創作絵本)

斎藤 隆介 作

瀧平 二郎 絵

岩崎書店 1971年 Eタ

31P 29×25cm 1,400円

大好きなじさまが、夜中に腹痛をおこした。医者を呼びに行くのは、豆太し
かないない。いつもはおくびょうな豆太が、怖さと足の痛みをがまんして、なき
なき走った。その夜、豆太は、勇気ある子どもしか見ることのできない、山の
神様の祭りを見る。

「人間やさしささえあれば、やらなきゃならねえことは、きっとやるもんだ。」
と、じさま。切り絵の世界がすばらしい。



やまなしもぎ

(日本傑作絵本シリーズ)

平野 直 再話

太田 大八 画

福音館書店 1977年 Eオ

39P 21×23cm 1,200円

病気の母親に食べさせようと、やまなしもぎに出かける三兄弟。ところが
二人の兄は、途中で出会った老婆のおしえを守らずに沼の主ののまれてしまう。
弟のさぶろうの番になり.....。「ゆけっちゃかさかさ」「ゆくなっちゃがさがさ」
等の繰り返し出てくるリズム感のある言葉が印象的で、話を盛り上げている。
絵は、落ち着いた色合いで、昔話独特の暖か味を感じさせ、話とよく調和して
いる。



やまんばのにしき

(むかしむかし絵本)

まつたに みよこ ぶん

せがわ やすお え

ポプラ社 1967年 Eセ

40P 27×21cm 1,000円

「もちをついてこねば、人もうまもみなくいころすどお。」というやまんばの言葉に、村人達はもちを用意した。もちを運んでいく役目は、いつも威張っている若者二人だが、恐ろしさのあまり途中で逃げ帰ってしまった。しかし、道案内役のあかざばんばがもちを届け、喜んだやまんばからお礼に、切っても減らない錦をもらった。

歌舞伎の舞台を見るような美しい構成の絵本。



ゆきおんな

(むかしむかし絵本)

まつたに みよこ ぶん

あさくら せつ え

ポプラ社 1969年 Eア

33P 27×21cm 1,000円

白馬岳に残る雪女の伝説。猟師は、吹雪の夜に出会った美しい女を嫁にして、幸せに暮らしていた。ある晩、父親を亡くした夜のことを、嫁につい話してしまう。すると嫁は、「あなたは、約束をやぶりましたね。」と言って姿を消してしまった。

厳しい自然の象徴ともいえる雪女。その美しさとおそろしさを、昔話の語りと清涼な絵とで心に訴えかける絵本である。



よあけ

(世界傑作絵本シリーズ アメリカの絵本)

コリー・シュルヴィッツ 作・画

瀬田 貞二 訳

福音館書店 1977年 Eシ

32P 24×26cm 1,200円

Dawn (1974)

寒く静かな湖の木の下でおじさんと孫が眠っている。月に照らされ動くもののなかった湖に風が吹き、コウモリやカエルが動き始める。鳥が鳴き、やがておじさんと孫が目覚める。ボートを湖にこぎだすと夜が明け始め、最高のクライマックスを迎える。朝の光が湖面を照らし出した時、「やまとみずうみが みどりになった」と表現され、夜明け前の静けさ、暗さとの対比が印象的である。



よもぎだんご

(かがくのとも傑作集)

さとう わきこ さく

福音館書店 1989年 Eサ

27P 26×23cm 838円

よもぎだんごが食べたくなったらばばあちゃんは、どろだんご遊びをしていた子ども達を誘ってよもぎ摘みへ。よもぎの他にも食べられる野草をたくさん摘んできて、いろんな料理をみんなで作った。最後によもぎだんごを作っていると、ばばあちゃんがどこかへ……。戻ってきたばばあちゃんは、きれいな洋服を着て、「今日は私の誕生日」とうれしそう。親子で楽しめる本である。



よわいかみつ つよいかたち

(かこさとし・かがくの本)

かこ さとし 著・絵

童心社 新版 1988年 E力

39P 27×19cm 1,300円

1枚のハガキは、ぴらぴらして弱い。台に渡したハガキは、10円玉だってちょっとしかのらない。ところが、あら不思議。ハガキのかたちを変えると...。いるものはハガキと10円玉とのり。

身近なものを使って、強さの構造を解き明かしていく。どうやったらもっと強いかたちになるのだろう。ついつい実際に試してみたくなるやさしい科学の本。宇宙や動物などシリーズ10巻の第8巻。



ろくべえ まってろよ

(みるみる絵本)

灰谷 健次郎 作

長 新太 絵

文研出版 1975年 E子

30P 29×23cm 1,243円

ろくべえが深い穴の中におちた。どうしたら助け出せるだろう？

早く助けないとろくべえは死ぬかもしれない。大人にたのむがだれも相手にしない。そこで、犬のクッキーをかごに入れておろし、ろくべえは助かる。絵も暗い穴から明るい所へ変わる。子どもの表情がやさしい。よかったね、ろくべえ。うれしさが伝わってくる。

空 白



わすれられないおくりもの

(児童図書館・絵本の部屋)

スーザン・パーレイ さく・え

小川 仁央 やく

評論社 1986年 E ヴ

24P 22×27cm 1,000円

Badger's parting gifts (1984)

アナグマは、ある日とうとう長いトンネルのむこうへ行ってしまった。けれども彼は、ひとりひとりにわすれられないおくりものを残していった。そしてそれはみんなのたからものになった。

老いや死を迎えること、友を失う悲しみの深さ。それでも残されたものは、一緒に過ごした日々をいとおしむことで、生きていく力に変えていく。やさしく彩色されたペン画とともに心にしみる一冊。



わたし

(かがくのとも傑作集)

谷川 俊太郎 ぶん

長 新太 え

福音館書店 1981年 Eチ

27P 25×22cm 838円

「わたし」はひとりでも、呼び名はいろいろというちょっとした不思議。この本を読んでその不思議に気がいたら、ほかの呼び名を探したり、家族や友達にはどんな呼び名があうか考えたりと、本の世界を広げて遊ぶことができるだろう。

「わたし」と社会とのつながりも見える呼び名。私たちが思う以上に、呼び名は奥が深い。



ワニのライルがやってきた

(ワニのライルのおはなし 1)

バーナード・ウェーバー さく

小杉 佐恵子 やく

大日本図書 1984年 Eウ

55P 28×21cm 1,456円

The house on East 88th Street (1962)

プリム一家が東88番通りに引っ越しをしてきた、その朝なんと、おふろにワニがいた。気だてのよいこのワニは、すぐに一家と仲よくなり、一緒に住むことになった。これが、「ワニのライルのおはなし」シリーズ全8巻のはじまりである。どの巻も、ライルが得意の芸で皆を笑わせ愉快に問題を解決してゆく。ユーモアだけでなく、人物の心情がわかりやすく、あたたかな心で描かれている。

書名索引

<あ>

あおい目のこねこ 29

赤ずきん 31

あかてぬぐいのおくさんと7にんのなかま 32

雨、あめ 32

あらしのよるに 33

アンナの赤いオーバー 33

<い>

1ねん1くみ1ばんワル 10

いちねんせい 34

いやいやえん 10

<う>

うごいちゃだめ! 34

海 4

ウルスリのすず 35

<え>

エルマーのぼうげん 17

<お>

おいしい野草 5

王さまと九人のきょうだい 35

おおきなきがほしい 36

オオくんとゆかいなかぞく 11

おかあさんの紙びな 36

おじいちゃん目、ぼく目 18

おしいれのぼうげん 37

おそばのくきはなぜあかい 11

おとしぶみ 37

おどりトラ 38

おにたのぼうし 38

おねしょの名人 7

おばあちゃんとわたし 39

おはなしおはなし 39

お話してよ、もうひとつ 19

おまたせクッキー 40

<か>

かえでがおか農場のいちねん 40

かたあしだちょうのエルフ 41

神の道化師 41

<き>

きかんしゃやえもん 12

きたきつねのゆめ 42

きつねのホイティ 42

木の上のお城 20

きょうりゅうが学校にやってきた 20

キリンさん 43

金のがちょうのほん 21

<<>

クイールはもうどう犬になった 16

くまの子ウーフ 12

クリスマスのまえのばん 43

<け>

げんきなマドレーヌ 44

<こ>

子うさぎましろのお話 44

ごきげんならいおん 45

こぐまのくまくん 21

ことばあそびうた 9

言葉図鑑 1 45

こども世界の民話 8

こねこのびっち 46

こねずみとえんびつ 31

こびとのくつや 46

昆虫 7

<さ>

さあみんについておいで！	47
雑草のくらし	5
さっちゃんの まほうのて	47
サリーのこけももつみ	48
さるとわに	48

<し>

ジェインのもうふ	22
じごくのそうべえ	49
鳥ひきおに	49
ジミーとジャネット、ふたりはふたご	22
地面の下のいきもの	6
ジャイアントジャムサンド	50
ジャムつきパンとフランス	50
ジャムねこさん	13

<す>

スイミー	51
すえっこメリーメリー	23
すきですゴリラ	51
杉山きょうだいのしゃぼんだまとあそぼう	52
すずめのくつした	23
ずーっとずっとだいすきだよ	52
スーホの白い馬	53

<せ>

世界でいちばんやかましい音	24
せかいにバーレただひとり	53
世界のあいさつ	3

<そ>

ぞうのパバール	54
ぞうのホートンたまごをかえす	54
ソフィーのねがいごと	24
空飛ぶ船と世界一のばか	55

<た>

ターちゃんとペリカン	56
太陽へとぶ矢	55
たしかめてみよう	3
たなばた	56
たねのずかん	6
タンゲくん	57

<ち>

ちいさいおうち	57
ちいさなもみのき	58
地下鉄のできるまで	8
チキン・サンデー	58
ちびっこひくま	59
チムとゆうかんなせんちょうさん	59
チャンティックリアときつね	60

<て>

天使のクリスマス	60
天の火をぬすんだうさぎ	61

<と>

どうぶつはいくあそび	61
10までかぞえられるこやぎ	62
とべバッタ	62
どんぐりかいぎ	63

<な>

なぞなぞのすきな女の子	13
-------------	----

<ね>

ねこのオーランドー	63
ねこのホレイショ	25
ねずみじょうど	64
ねむりひめ	64

<の>

のはらうた 1	9
---------	---

<は>

はじめてのかり	65	やまんばのにしき	71
はじめてのキャンプ	14	<ゆ>	
花仙人	17	ゆうかななハリネズミマックス	28
はなのすきなうし	65	ゆうびんやさんはだれ?	28
番ねずみのヤカちゃん	25	ゆきおんな	71
はんぶんのおんどり	30	<よ>	

<ひ>

ピーターラビットのおはなし	66	よあけ	72
びりっかすの子ねこ	26	よもぎだんご	72
びりのきもち	66	よわいかみつよいかたち	73

<ふ>

ふたりはともだち	67	<り>	
ブレーメンのおんがくたい	67	リトル・カーのぼうげん	29

<へ>

ぺちゃんこスタンレー	26	<ろ>	
ペレのあたらしいふく	68	ろくべえ まってろよ	73

<ほ>

ぼくは王さま	14	<わ>	
ぼくはめいたんてい 1	27	わすれられないおくりもの	74

<ま>

マーシャとくま	68	わたし	75
まちんと	69	ワニのライルがやってきた	75
マンモスの謎	69		

<み>

みどりいろのたね	15
ミリー・モリー・マンデーのおはなし	27

<も>

モチモチの木	70
ももいろのきりん	15
森のずかん	4

<や>

やかましむらのこどもの日	30
やまなしもぎ	70

著者名索引

<あ>

赤羽 未吉	35, 53
阿川 弘之	12
秋元 良平	16
あさくら せつ	71
あしの あき	39
アーディゾーニ, エドワード	59
阿部 公子	25
あべ 弘士	33
あまん きみこ	38
アリキ	69
安西 徹雄	50

<い>

イ, ヨンギョン	32
生野 幸吉	31
石井 桃子	11, 46, 48, 57, 66
いとい しげさと	22
乾 侑美子	40
井上 洋介	12
いわさき ちひろ	38

<う>

ヴィークランド	30
ウィルバー, リチャード	25
ウィルヘルム, ハンス	52
ウエッタシンハ, シビル	42
ウェーバー, バーナード	75
内田 莉莎子	8, 68
ウンガーマン, アルネ	53
ウンゲラー, トミー	26

<え>

エイムズ, ジェラルド	3
エインワース, ルース	28
エルキン, ベンジャミン	24

<お>

大社 玲子	13, 25
大島 妙子	11
太田 大八	15, 24, 29, 70
大塚 勇三	35, 53
大野 正男	6
大村 百合子	10
岡島 秀治	37
岡部 冬彦	12
岡本 浜江	20
小川 仁央	74
おのき がく	41
おのでら ゆりこ	68
オルー, ウェンディー	24

<か>

甲斐 信枝	5
掛川 恭子	39
加古 里子	4, 8, 73
梶山 俊夫	49
片山 健	57, 61, 63
角野 栄子	11
金森 襄作	38
ガネット, ルース・クリスマン	17
ガネット, ルース・スタイルス	17
金原 瑞人	28
上條 由美子	27, 58
かみや にじ	32
カリジェ, アロウ	35
ガルドン, ボール	48
神沢 利子	12

<き>	ささき たづ	44
菊池 恭子	ささき たづこ	46
きしだ えりこ	佐藤 さとる	36
きたむら よりはる	さとう わきこ	72
君島 久子	<し>	
木村 裕一	ジューフェルト, ハリエット	33
キング=スミス, D	シースゴール, イェンス	53
<<>	シマント, マーク	27
クアッケンブッシュ, ロバート	シャーマット, マージョリー・W	27
くどう なおこ	シュルヴィッツ, ユリー	55, 72
クーニー, バーバラ	ショーエンヘル, ジョン	59
熊谷 鋤司	しらき しげる	54
クライマー, エリナー	シルヴァマン, エリカ	34
クリアリー B.	神宮 輝夫	55
グリム	シンドラー, S. D	34
厨川 圭子	<す>	
クロス, G	杉山 輝行	52
<こ>	杉山 弘之	52
幸田 敦子	スチブンソン, ジェームス	39
河本 祥子	スチュービス, タリバルジス	3
こうや すずむ	ステーエフ	31
小杉 佐恵子	スピアー, ビーター	32
後藤 竜二	<せ>	
五味 太郎	瀬川 康男	9, 71
コリントン, ビーター	瀬田 真二	21, 29, 44, 59, 64, 67, 72
コルウェル, アイリーン	せな あいこ	34
こわせ たまみ	セルデン, ジョージ	23
<さ>	センダック, モーリス	21
蔡 皋	<そ>	
さいおんじ さちこ	ゾロトウ, シャーロット	39
斎藤 隆介		
阪田 寛夫		
さくま ゆみこ		

<た>

タカタ ケンジ	20
たかどの ほうこ	15
高森 登志夫	5, 6
滝平 二郎	70
田島 征三	62
田島 征彦	49
谷川 俊太郎	9, 34, 51, 75
たばた せいいち	37, 47

<ち>

千葉 茂樹	69
長 新太	3, 73, 75
チョーサー, ジェフリー	60
鄭【スク】番(ちよん・すくひゃん)	38

<つ>

津尾 美智子	28
司 修	69

<て>

ディ・フィオリ, ローレンス	19
ディヤング, マインダート	26
手島 圭三郎	42
デ・パオラ, トミー	41
デュボアザン, ロジャー	45
寺村 輝夫	14
デンスロウ, ウィリアム・W	43

<と>

トゥロートン, ジョアンナ	61
得田 之久	7
ドクター=スース	54

<な>

中川 宗弥	15
中川 李枝子	10, 15
長崎 源之助	36
長瀬 礼子	47

中村 妙子	26
-------	----

<は>

灰谷 健次郎	73
バーカー, アル	22
バーグ, リーラ	29
長谷川 知子	10
ハッチンス, パット	40
ばーとん, ばーじにあ・リー	57
初山 滋	11, 56
林 明子	14, 62
パーレイ, スーザン	74

<ひ>

久山 太市	52
ひらの けいいち	60
平野 直	70
広野 多珂子	18

<ふ>

ファティオ, ルイーズ	45
フィッシャー, ハンス	46, 67
フォーサイス, アン	20
福本 友美子	58
ブラウン, アントニー	51
ブラウン, ジェフ	26
ブラウン, マーガレット・ワイズ	58
ブラトフ, M	68
ブリスリー, ジョイス・L	27
フリーマン・ドン	56
ブリュノフ, ジャン・ド'	54
ブレイクセン, アルフ	62
古田 足日	16, 37
ブルック, レズリー	21
古矢 一穂	6
ブロベンセン, アリス	40

プロベンセン, マーティン	40	光吉 夏弥	27, 65
<へ>		南塚 直子	43
ヘイリー, ゲイル・E	39	ミナリック, E. H.	21
ヘイル, キャスリーン	63	みよし せきや	44
ベスコフ, エルサ	68	ミラー, アーサー	22
ペーメルマンズ, ルド' ウィッヒ	44	<む>	
ヘンツ, ゼリーナ	35	ムーア, クレメント・C	43
<ほ>		むかい ながまさ	20, 24
ポター, ピアトリクス	66	むらおか はなこ	45
ホーバン, ラッセル	50	村上 勉	36
ホーバン, リリアン	50	<や>	
ホフマン, フェリクス	64	やがわ すみこ	54
ボラッコ, ハ' トリシア	58	柳生 弦一郎	7
堀内 誠一	16, 30	やまぐち ともこ	30
<ま>		山口 文生	61
マクダーモット, ジェラルド'	55	山下 明生	49, 51
マクラマン, ジム	26	山田 真	7
マクラ克蘭, P	18	山中 冬児	36
マチ セン, エゴン	29	山内 清子	30, 62
松岡 享子	13, 17, 21, 24, 25, 42, 50	やまのべ いすず	53
松岡 達英	4, 6	やまわき ゆりこ	22
松川 真弓	33	<ゆ>	
マックロスキー, ロバート	48	ゆあさ ふみえ	24, 41
松瀬 七織	21	ゆぐち えみこ	19
松谷 さやか	31	<よ>	
松谷 みよ子	13, 69, 71	吉田 達志	65
松野 正子	23	吉谷 昭憲	37
まど みちお	43	吉村 証子	3
丸木 位里	64	よつだ ゆきえ	19
丸山 尚敏	5	<ら>	
<み>		ラチョフ, E	68
三木 卓	67	ランサム, アーサー	55
光吉 郁子	23		

<リ>

リップマン, ピーター 23
リーフ, マンロー 65
リンドグレーン 30

<レ>

レオニ, レオ 51

<ロ>

ローソン, ロバート 65
ロッシュ=マゾン, ジャンヌ 30
ロード, ジョン・ヴァーノン 50
ロビンソン, ジョーン 23
ローベル, アニタ 33
ローベル, アーノルド 67

<わ>

ワイラー, ローズ 3
ワイルドスミス, ブライアン 47
若林 千鶴 18
脇 明子 63
和田 誠 14, 34, 66
わたなべ しげお 17, 43
渡辺 洋二 13
ワッツ, バーナディット 31, 46

<選定・執筆>

福岡おはなしの会
子どもと絵本の会
福岡市総合図書館

<表紙絵>

野田 真由美（子どもと絵本の会）

モデル児童図書目録（初級）

平成 15 年 11 月発行

編集・発行 福岡市総合図書館

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7-1

TEL 092-852-0600 FAX 092-852-0609

<http://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/>

モデル児童図書目録（初級）（平成 15 年 11 月発行）に基づいて、制作されました。

